

三九六 日ニ加ハリ亞人ノ一隊別ニハッドソンの上流ヨリ追躡シ來テ其退路ヲ絶テシカハビュルゴイン寤寐シ十月十六日其全軍五千八百人皆降ヲ請フ○佛國ハ初ヨリ亞人ヲ助クルニ意アリト雖佛王亞人ノ其本國ニ叛クヲ惡テ觀望セシカビュルゴインノ敗ヲ聞クニ及テ終ニ計ヲ決シ翌年二月六日其獨立ヲ許シ戰艦兵士ヲ遣テ戰ヲ助ク○是時國人益政府ノ失計ヲ咎ムル者アリノルス亦竊ニ悔イ三月自議院ニ至テ本國貢稅ノ權ヲ去リ亞人ト平ラカンコトヲ建議ス其議始メテ出テ時滿院相顧ミテ皆愕然タリ然レモ亦敢ヘテ之ニ抗スル者ナク三月十一日遂ニ王ノ許可ヲ得テ五名ノ使者ヲ發シ亞人ト其事ヲ商議セシム時ニノルスノ意兵ヲ罷ムルニ急ナリ密ニ使者ニ囑シテ曰ク自主ヲ除ク外ハ悉ク亞人ノ請フ所ニ從フベシ勉メテ事ヲ生スルコト勿レト然ルニ此議決シテ後二日佛國亞人ト好ヲ結フ報至リケレハノルス益狼狽シテ爲ソ所

ヲ知ラス尋テ自官ヲ退キピットヲ勸メテ之ニ代ラシム然レモ王ノピットヲ忌ムコト是時愈甚シクピットモ亦命ニ應スルコトヲ欲セス久シカラスシテノルス又官ニ復ス○時ニピット老病ヲ以テ家ニ臥シカ和議起ルト聞テ四月七日院中ニ至リ其不可ヲ論シテ曰ク余ノ曾テ戰ヲ拒ミシハ今日アルヲ知レハナリ然レモ今我兵挫折シ且佛國新ニ赴援スル時ニ當テ和ヲ講セハ英國ノ威ハ今ヨリ地ニ墜チント然レモ議院其論ニ從ハス後使者ヲ發シテ和議ヲ謀リシカ亞人ハ必ス自主ヲ得ントシテ其議協同セス是日ピット病篤クシテ起ツコト能ハス其次子ウヰルムト女婿マホントニ扶ケラレテ院中ニ入り慷慨劇論スレモリツチモンドノ侯某固ク和議ヲ主トシテ頗ル不敬ノ語アリピット怒テ之ニ答ヘント再

三 起立セシカ忽昏冥シテ地ニ倒レ傍人之ヲ院外ニ昇出ス後一月ヲ經テ

九 遂ニ家ニ死セリピットノ父ハ素貧人ニシテ其產百ポンドニ過キサリシ

三カビット才學ヲ以テ家ヲ起シ遂ニ國柄ヲ執リ世爵ヲ得ルニ至レリ不幸  
八ニシテ王ニ不遇ナリト雖國人ノ爲ニ景慕セラル、コト極メテ厚ク再  
政ヲ執ルニ及テ病テ事ヲ視ルコト能ハスト雖諸文書ビットノ名アレハ  
人乃<sup>テ</sup>之ヲ敬セリト云フ其第二子ウ<sup>キ</sup>ルレム、ビット亦才略アリ後又父ニ繼  
テ聲名アリ○是歲三月ハウ自請テ英ニ歸リシニヨリテクリントン之  
ニ代テヒラデルヒアノ軍ヲ督セシカ尋テ邑ヲ棄テ、退キケレハ華盛  
頓<sup>ノ</sup>之ヲ退テ新ゼルジ<sup>ニ</sup>至リ又ヒラデルヒアヲ復ス○千七百七十九  
年三月西班牙合衆國ノ獨立ヲ許シ同八十年和蘭モ亦之ヲ許シ共ニ佛  
ト合シテ英國ト兵ヲ構フ是ニ於テ四國ノ軍艦洋面ニ馳驅シテ互ニ雄  
長ヲ爭ヒ戰爭紛々タリ○千七百八十年夏小民亂ヲ起シテ倫敦ヲ劫掠  
ス是ヨリ先舊教ノ徒ヲ處スル法尙峻酷ヲ極メテ其徒タル者ハ往々土  
地ヲ買ヒ田産ヲ有ツコトヲ得サルニ至ル是歲議院始メテ其禁ヲ除キ

シカゴ<sup>イ</sup>ールドント云フ者狂悖ニテシ亂ヲ好ミ政府又舊教ヲ興スト唱  
ヘテ愚民ヲ煽動セシナリ時ニ政府警備ニ乏シク之ヲ制スルコト能ハ  
ス六月二日叛徒數萬人倫敦ニ亂入シテ寺觀ヲ焚キ邸宅ヲ毀テ數日ノ  
間街上ニ群聚號呼シテ滿都之カ爲ニ填咽セシカ既ニシテ八日<sup>イ</sup>ール  
ドン縛<sup>ニ</sup>就キケレハ叛徒隨テ星散シ巨魁二十餘人誅ニ服ス○是歲ク  
リントン<sup>チャ</sup>ールストン<sup>ノ</sup>ヲ圍テ之ヲ取リ尋テ佛ノ軍艦大ニ至ルト聞キ  
其部將<sup>コ</sup>ルンワリス<sup>ヲ</sup>止メテ<sup>チャ</sup>ールストン<sup>及</sup>南カロリナ<sup>ヲ</sup>守ラシメ  
自<sup>ニ</sup>ヨルク<sup>ニ</sup>至テ佛軍<sup>ニ</sup>備フ然レ<sup>ニ</sup>戰起テ以來凡<sup>ソ</sup>本國ノ處置皆宜  
ヲ失シ糧食兵馬多ク意ノ如キコトヲ得ス是ヲ以テクリントン<sup>ニ</sup>遂ニ辭  
職シ<sup>コ</sup>ルンワリス<sup>之</sup>ニ代テ<sup>亞</sup>ノ地ノ總兵<sup>タリ</sup>○千七百八十一年<sup>コ</sup>ル  
ンワリス<sup>七</sup>千ノ兵<sup>ヲ</sup>以テ<sup>ヨ</sup>ルク<sup>ク</sup>、<sup>タ</sup>ウン<sup>ニ</sup>在リ華盛頓<sup>及</sup>ラファ<sup>エ</sup>ット<sup>等</sup>兵  
ヲ合シテ之ヲ圍ミ十月八日ヨリア<sup>軍</sup>大砲ヲ放テ攻撃シ晝夜止マス十

四四日ニ至テ遂ニ其二砦ヲ陷イレ益之ヲ急攻シケレハコロンワリス支  
フルコト能ハス十九日全軍華盛頓ノ營ニ至テ降ヲ請フ是ニ於テ亞ノ  
地全ク英軍ナシ○千七百八十二年四月十二日英ノ水軍佛人トリコシア  
度西印ノ洋面ニ戰テ大ニ之ニ勝テ佛人ヲ殺傷スルコト七千餘人其船六  
艘ヲ奪ヒ其他銃砲金錢等獲ル所無數ナリ然レモ此間英軍多ク利アラ  
ズ前年ヨリ是歲夏ニ至ルマテミノルカ等ノ數地ヲ失フ○時ニ講和ノ  
說復起リ國人皆兵ヲ罷メテ民ヲ息ヘンコトヲ欲スレモ王獨リ快々トシ  
テ樂マス既ニシテミノルカノ敗報至ルニ及テ議院益々和議ヲ主張シ且ッ  
ノルスノ不能ヲ咎メケレハ是歲三月ノルス官ヲ罷メロッキンハムノ侯  
再々輔ヲリ○戰初已來英將エルリオット五千餘人ヲ以テシブラタル  
ヲ守リ西人之ヲ長圍シテ既ニ三年ヲ歷タリ千七百八十一年四月中旬  
ヨリ五月ノ終ニ至ル迄攻兵放ツ所ノ丸數五萬六千ニ及テ城中死スル

者僅ニ七十人ニ過キス是歲孟春西將シリロント云フ者ミノルカヲ  
陷イレテ其歸途ヲブラタルノ攻兵ニ加ハリ且佛人モ亦來援シケレ  
ハ又攻戰ヲ議シ春ヨリ秋ニ至ル迄日々ニ之ヲ砲撃スレモ城中竟ニ屈  
セズ九月十三日シリロン又大舉シテ城ニ逼リケレハ城兵砲丸ヲ放  
テ之ニ應シ夜ニ入テ未ダ已マス西船ハ重厚ナルヲ以テ砲丸其腹板ニ止  
マリ薄暮忽火ヲ發セシカ夜半遂ニ諸船ニ延燒シ炎焰海ヲ照シ曉ニ至  
テ西船盡ク燒亡シタリ是夜戰卒火ニ燔カレ水ニ溺レテ死スル者數ヲ  
知ラス其叫喚ノ聲城中ニ聞エケレハ城中見ルニ忍ヒス船ヲ下シテ之  
ヲ救ヒ其傷痕ヲ療シテ之ヲ放還ス然レモ此役ノ後西人尙カ退カス後諸  
國和成ルニ至テ其圍始メテ解ケタリ○是歲秋英國遂ニ和議ニ決シ九  
一○四月三十日先ッ合衆國ノ獨立ヲ許シ翌年春又西佛二國ト和ス和蘭ハ獨リ此  
議ニ與カラサリシカ數月ノ後遂ニ之ニ加ハリ千七百八十三年九月三

四日五國巴勒ニ會盟シテ兵ヲ息ム○ロッキンハムノ侯政ヲ執テ後久シカ  
ニラスシテ死シセルボルン及ホルトランノ二人相續テ之ニ代リシカ亦  
皆罷メラレテ千七百八十四年ウキルレム、ピット會計總裁ト爲ル時ニ年二  
十五ナリ議院中往々其年少ヲ議スル者アリ然レモ其才鋒固ヨリ群ニ  
出テ加フルニ國人其父ノ故ヲ以テ之ヲ推選シ遂ニ顯官ニ上レリ時ニ  
連年ノ戰事ニ因テ國債又一億ポンドヲ増シ亂末ニ至テハ政府困頓シ  
テ數千ノ兵ヲモ備フルコト能ハスピット國ニ當テ首トシテ會計ノ事務  
ヲ釐正シ倉庫ヲ補充ス尋テ翌年始メテ奴隸ノ廢禁及ヒ議院ノ改革ヲ  
建議セシカ其議未ダ行ハレス○千七百八十四年ピットノ議ヲ用ヰテ東印  
度ノ爲ニ別ニ一官署ヲ設ケ印度商通ノ事ヲ司ラシム○クライブノ死  
後ハスチングスト云フ者之ニ繼テカルキニタマドラス等ノ三地ヲ管領  
シ紀律ヲ修明シ土酋ヲ征服シ千七百八十五年其英ニ歸ルニ當テ四隣

憎服シ疆土益廣シ然レモ其在職ノ間橫歛凌虐ノ事亦少カラス是歲ヒ  
ルク其罪ヲ議院ニ訴ヘピットホックス等之ヲ羅織シテ遂ニ大獄ト爲リシ  
カ議院其功ヲ追念シ後七年ヲ經テ之ヲ放釋ス○千七百八十八年十一  
月王心疾ニ罹テ政ヲ聽クコト能ハス就新黨ノ人世子ゼオルシヲ以テ  
政ヲ攝セシメントス然レモピット其古例ニ非ルコトヲ謂テ之ヲ許サス  
議院ニ下シテ其故事ヲ求メシカ翌年二月其議未決セスシテ王ノ病常  
ニ復ス世子年長シテ放侈度ナシ王ハ性質縝密ナルヲ以テ之ヲ容ル、  
コト能ハス故ニ世子ハ就新黨ニ結托シテ日ニ王ト隙アリ○千七百八  
十九年佛國ノ大亂始メテ起リ國會貴族高僧ヲ逐テ政權ヲ奪ヒ巴勒ノ  
小民群起シテ牢獄ヲ破リ罪囚ヲ放チ權臣勳貴ヲ執ヘテ之ヲ刑殺スル  
○四コト日ニ數十人其兇暴實ニ千古ニ絶ス英ハ隣國ニ在テ始終ヲ傍觀シ  
三其義舉ヲ稱讚スル者アリ又其濫刑橫恣ヲ痛斥スル者アリテ有識ノ人

四〇四ト雖往々議論一ナラス議院中ビュルク書ヲ著シテ其末路土崩瓦解ニ至  
ラノコトヲ論シ深ク佛人ノ過激ヲ罪シケレハホックスノ黨人又書ヲ著  
シテ曰ク過激ハ大亂ノ常事過激ニ非レハ其憤ヲ洩スニ足ラスト國中  
隨テ黨ヲ樹テ會ヲ結ヒ互ニ相排撃シテ往々亂ヲ生シ政府頗ル警心アリ  
○千七百九十一年六月佛王ルイス第十六世巴勒ヲ逃レントシテ執ヘ  
ラレ亂徒遂ニ其后及世子ヲ併セテ之ヲ幽閉ス時ニ佛ノ王族諸侯亂ヲ  
避クル者皆日耳曼ノ境土ニ至テ一軍ヲ爲シ頻ニ日帝ノ援ヲ得テ王ヲ  
救ハント請フ佛王ノ后ハ日帝レオポルドノ妹ナリ故ニ日帝殊ニ佛王  
ノ不幸ヲ憐ミ是歲八月李瀟生王フレデリックトピルニツコ會シテ密ニ  
兵ヲ起サント議シケレハ佛國聞テ之ヲ詰リ翌年三月遂ニ日耳曼ト兵  
ヲ構フ尋テ俄羅斯西班牙以太利等ノ諸國皆日耳曼ヲ援ケテ戰ニ與セ  
リ然レモ英國ハ尙局外ニ於テ觀望セシガ千七百九十三年一月佛人遂

ニ王ヲ刑シテ共和ノ制ヲ立テ檄テ諸國ニ移シテ各國若シ其君ヲ去リ佛  
國ト共治ノ政ヲ同シクセンコトヲ欲スル者ハ皆之ヲ助ケント云ヒケ  
レハ英國怒テ佛ノ公使ヲ逐ヒ是歲二月遂ニ又兵ヲ構フ○是歲佛人兵  
ヲ發シフレンドルスニ入テ和蘭ヲ攻ム王其次子フレデリックヲ遣リ日  
耳曼ト策應シテ之ヲ援ケシカフレデリック無能ニシテ任ニ堪ヘス翌年  
英ニ歸リケレハワルモードント云フ者代テ軍ヲ領ス○千七百九十四  
年英人コルシカ嶋ヲ攻メテ之ヲ取リ六月一日英將ハウ佛ノ戰艦トブ  
レストノ海上ニ戰テ又大ニ之ヲ敗ル○是歲ノ間フレンドルスノ佛軍  
凡ソ五十萬モローヅールドンベシグリュイ等之ヲ號令シ英日等ノ軍二十  
餘萬之ト戰テ屢利アラヌ千七百九十五年一月十六日佛軍安特堤ヲ奪  
五〇四ヒ和蘭國ヲ舉テ降ヲ請ヒ其國名ヲバタビアト改メテ佛ニ屬ス○初李  
王フレデリック戰ヲ起シテヨリ竊ニ兩端ヲ持セシカ是歲和蘭ノ滅フル

四ニ至テ遂ニ同盟ニ背テ佛ニ與ス○是歲英人喜望峯時ニ和蘭ヲ攻メテ六之ヲ取リ其他錫蘭以上東マラッカコナン印度等ヲ奪フ○時ニ英國草莽ノ徒尙佛國ノ舉動ヲ誤認シテ義舉トス度並ニ和爾ノ屬地等ヲ奪フ○時ニ英國草莽ノ徒尙佛國ノ舉動ヲ誤認シテ義舉トスル者アリ加フルニ是歲秋會凶荒ニシテ物情頗穩ナラス十月王公會ヲ開カントシテ議院ニ至ル途中風砲ヲ以テ王ノ駕ヲ覘撃スル者アリ其他群民木石ノ類ヲ亂投シ王院中ニ入ルニ及テ竟ニ其駕ヲ奪テ之ヲ擊碎ス王令ヲ下シテ之ヲ窮治シ刑ヲ裝ル者亦衆シ○千七百九十六年春西班牙亦佛ト和シ和蘭ト謀ヲ通シ三國相約シテ英ヲ攻メントス○千七百九十七年三國各軍艦ヲ裝テブレスト佛ガジョース西テキスル蘭等ノ諸港ニ在リ二月廿四日英船十五艘ゼルビスヲ將トシテトルソン之ニ佐トシテ西船二十五艘トセント、ピンセントノ海角ニ戰ヒ西軍敗走ス○同十月和蘭ノ海軍大將ウイントルテキスルノ軍ヲ率ヰテブレストニ

至ラントスル途中英ノ大將ドンカン之ヲ追テ十一日コンペルダウンノ洋面ニ戰ヒ敵船九艘大砲五十六門ヲ奪フ○是歲スビットヘットノ水軍俸給ノ足ラサルヲ怨テ叛ヲ謀リ尋テマドウェーノ軍艦亦叛シ其船二十五艘テーノス河口ヲ圍ミ其訴ヲ伸ヘント請フ政府之ヲ慰解スレモ聽カス是ニ於テビット海岸ヲ防禦シ悉ク薪水ヲ絶テ之ヲ窘困セシカ久シクシテ叛徒自魁首ヲ捕ヘテ降ヲ請ヒ其事遂ニ息ミタリ○前年佛將那波列翁以多利ニ在テ全土ヲ壓服シ是歲春六万ノ兵ヲ以テ埃地利ニ攻入セシカハアルナジュークヤールス敵スルコト能ハスシテ和ヲ請ヒ十月十七日カンボホルミオニ於テ遂ニ佛ト盟フ是ヨリ先俄羅斯ハ同盟ニ加ハルト雖米兵ヲ出サス是ニ至テ尙佛ト諷顔スル者ハ獨英國ノミナ四リ○千七百九十八年那波列翁陸軍二万ヲ以テ地中海ニ入り其途中マールタ島ヲ取リ更ニ進テ埃及ニ航ス其計埃及ヲ取テ印度ニ出テ英ノ屬

八〇四 地ヲ奪ハントスルナリチルソン那波列翁ノ帆ヲ揚クルヲ聞テ直ニ軍艦ヲ發シテ之ヲ追ヒ海上ニ物色スルコト累月八月一日ナイル河口ニ至テ佛ノ軍艦ニ逢ヒ大ニ之ト戰フ時ニ那波列翁ハ既ニアレキサンドリアニ上陸シ從行ノ軍艦僅ニ十二艘港口ニ碇泊セリ是日晚ニ及テ戰起リ劇戰幾ト一日ニ夜佛將其船四艘ヲ以テ遁走シ三日ノ朝ニ至テ佛船全キ者ハ僅ニ二艘アリ内一艘ハ英軍ニ降り一艘ハ佛人自之ヲ燒焚ス

○諸國チルソンノ大捷ヲ聞テ又興起スル者アリ千七百九十九年俄羅斯埃地利チーブルス等再兵ヲ起シ俄羅斯ノ將シユワルロー以多利ニ入テ悉ク佛ノ侵地ヲ奪還ス後轉シテ瑞士ニ入りシガ埃兵ト相和セサルニ因テ大ニ功ヲ得ス尋テ英國俄羅斯ト謀テ又和蘭ニ入りヨルクノ侯二國ノ兵ヲ號令シヘルドル等ノ數邑ヲ降シ、カ十一月ヨルベニ在テ佛蘭ノ兵ニ壓セラレ悉ク俘虜ヲ放還シ其得ル所ノ地ヲ棄テ、英ニ旋師ス

○那波列翁埃及ニ入テ後アレキサンドリアヲ奪ヒカイロヲ取リ沙漠ヲ絶テシリアニ出テアクレノ邑ヲ圍ミシカ英將シドニール土耳其ノ兵ヲ援ケテ之ト戰ヒケレハ二月ヲ經テ那波列翁邑ヲ下スコト能ハス既ニシテ本國ノ政令修マラス征戰屢敗嗣シ民心離反スト聞テ是歲十月軍ヲ埃及ニ遣シテ單身佛ニ歸リ十一月途ニ紀綱ヲ一變シニコソジユルヲ置テ政ヲ爲シ自其一ニ補セラル

○千八百年ピットノ議ヲ用キ愛倫ノ議院ヲ廢シテ本國ニ合併シ愛倫ヨリ貴族三十二名代員百名ヲ貢セシム受倫ハ僻遠ノ故ヲ以テ土人亂ヲ好ミ佛國ノ事起テヨリ屢佛人ヲ誘テ國ニ入レント謀リ其反覆殊ニ甚シ是歲ウルフト云フ者又亂ヲ起シ、コ因テピット途ニ議院ニ勸メ蘇格蘭ノ例ニ倣テ二國ヲ併一セシナリ

四 千八百一年一月一日ヨリ此議ヲ施行シ是ヨリ大不列顛及愛倫ノ議院九ト稱ス

○是歲那波列翁自以多利ニ至テ日耳曼ノ兵ト戰フ日軍屢利ア

四ラス十二月二日ホーヘンリンデンニ戰テ日軍又大ニ破ラレ日耳曼又  
十佛ト和ス○是歲英國マスコ嶋ヲ攻メテ之ヲ奪フ○千八百一年一月二  
十二日愛倫及不列顛ノ議員始メテ倫敦ニ會ス法教改革ノ時以來是ニ  
至ル迄舊教ノ徒ハ尙議員ニ撰マレ及官ヲ受クルコトヲ得ス此法酷ニ  
過クルヲ以テビット久シク之ヲ廢セントセシカ愛倫ニハ尙舊教ノ徒多  
キヲ以テ此會中ビット其禁ヲ除テ愛倫人ニ便セント建議セシニ王之ヲ  
聽カス尋テビット官ヲ罷メアシントント云フ者之ニ嗣キタリ○是歲春  
初瑞典噠馬俄羅斯北海ノ貿易ヲ爭テ英ト不和ヲ生ス那波列翁之ヲ聞  
テ陰ニ三國ヲ囁シケレハ三國遂ニ連盟シ後李滯生モ亦之ニ加テ共ニ  
英ニ抗ス是ニ於テ英將ハイドパルク大艦十八艘ヲ督シテルソン其  
副トシテ共ニバルチック海ニ赴キ四月二日コペンハーゲン  
ニ噠馬ノ船ト戰フ是日バルクルハ港外ニ止リテルソン獨リ其船數ノ半

ヲ以テ港中ニ入リシカ敵ノ大砲凡ソ二千餘門其船數モ亦過ニ相敵セス  
テルソン衆ヲ督シテ苦戰スル際其船二艘忽チ暗礁ニ墜リタリバルクル  
之ヲ見テ急ニ退軍ノ號ヲ上シ然レモテルソン見サル狀ヲ爲シテ進撃  
ノ號ヲ其船ノ檣梢ニ釘着シ又戰フコト稍久シクシテ敵船盡ク旗ヲ下  
シ降ヲ請ヒタリ此戰ノ後テルソン書ヲ噠馬王ニ寄セテ講和ヲ勸メシ  
カハ王其議ニ從テ又和ヲ結ヒヌ其間俄羅斯帝パウル其臣ノ爲ニ殺サ  
レ其子アレキサンドル第一世之ニ繼テ立テ又佛ニ叛テ英ト和セシカ  
幾何ナラスシテ瑞典亦之ニ加ハリ六月十七日俄瑞噠英四國再ヒ親交ヲ  
結フ是ニ於テ北方ノ會盟又破レタリ○埃及ニ於テハ是歲三月初旬英  
將アベルクロンビーエボーキル灣ヨリ上陸シテ十八日エボーキル城  
一四ヲ取リ同廿一日佛將メノートカイロノ近傍ニ遭ヒ苦戰スルコト半日  
一餘兩軍彈藥既ニ盡キ石ヲ投シ奮闘スルコト又久シクシテ佛軍終ニ敗



四ノメノ一邑内ニ退キタリ此役アヘルクロンヒ一重傷ヲ蒙リ後數日ニシテ死シケレハヒュッナンソント云フ者代テ其軍ヲ督シ六月廿四日ニ至テ遂ニカイロヲ陷イル其後ヒュッナンソン再メノ一チアレキサンドリアニ圍テ八月廿二日又之ヲ降シ其全軍一萬餘人英人爲ニ船舶ヲ辨シテ之ヲ佛ニ護送シ埃及悉平定シタリ○初千八百年那波列翁コンシユルニ補セラレテ後英ト書牘ヲ往來シテ兵ヲ罷メント議セシカ佛ノ求ムル所倨傲ナルヲ以テ英國之ヲ許サス其後和議數次ニ及ヘ成ラズ是歲埃及ノ敗ヲ聞クニ及テ那波列翁始メテ屈シ十月一日前議ヲ尋テ權ニ和ヲ約シ千八百二年三月廿八日遂ニアミーンズ地佛ノニ於テ盟フ然レモ此約中英國悉利蘭西班牙等ノ侵地ヲ還シ纒ニツリニダール錫蘭ノ二地ヲ保テ佛ノ橫奪セル地ハ毫モ裁截ヲ加ヘス故ニ識者共久シキニ堪ヘサルコトヲ知レリ斯テアミーンズノ約後幾何ナラサルニ佛人諸屬

地ノ不服ヲ討スト宣言シ大ニ和蘭佛蘭西等ノ諸港ニ戰艦ヲ艦シケレハ英國モ亦陰ニ兵ヲ募リ海軍ヲ補足シ二國互ニ約ニ背クヲ責メテ往復難詰シ釁隙日ニ深シ千八百四年春那波列翁事ニ由テ英ノ公使ヲ朝堂ニ詆罵シ杖ヲ舉ケテ之ヲ擊ントス公使モ亦劍ヲ按シテ之ニ向ヒ二人辭色共ニ厲シ後公使屢其辱ヲ訴フレモ用サレヌ五月十三日怒テ巴勒ヲ去リ英國佛ノ公使ヲ逐テ二國遂ニ又兵ヲ構フ是歲佛人兵ヲ出シテハノーブルヲ奪ヘリ○千八百四年アジントン事ニ堪ヘサルヲ以テ罷メラレセツト又舊官ニ復ス○是歲四月英國俄羅斯ト盟ヒ尋テ瑞典國地利モ亦之ニ加ハリ連合シテ又佛ニ敵ス然レモ字漏生ハ尙泛然トシテ中立セリ既ニシテ英西二國又釁ヲ生シ十二月西人英ト絶ス○是歲五月十五日那波列翁國ヲ篡テ帝ト稱ス○千八百五年佛國陸軍十五萬ヲ備ヘブレストトローンカシーズノ三港ニ船ヲ集メ西人ト謀テ大

四一四ニ英ヲ攻メントス前年ノ冬ヨリチルソン軍艦ヲ以テ地中海ニ往來シ  
其舉動ヲ偵視セシカ是歲十月十九日カシミーズノ軍艦港ヲ出テシブラ  
ルタルニ向ヒシカハチルソン艦ヲ解テ急ニ之ヲ追ヒ十月廿一日トラ  
ハルガルノ海角ニ要撃シテ大ニ之ヲ破レリ此戰西佛ノ軍艦三十五艘  
英船二十七艘英人敵ノ大船十九艘ヲ奪ヒ戰卒一万二千ヲ擄ニセシカ  
戰酣ニシテチルソン丸ニ中テ死セリ之ヲトラハルガルノ戰ト名ツケ  
古今劇戰ノ一ナリ時ニチルソン年四十八歲始メテ海軍ニ任セラレシ  
ヨリ是ニ至テ三十餘年大小凡百二十戰英國海軍ノ大將前後其右ニ出  
ツル者ナシ○是歲五月那波列翁自以多利ニ至テ其王ト爲リ尋テ英ニ  
備フル所ノ軍ヲ以テ日耳曼ニ入り十一月十三日ビーノンナヲ取リ十二  
月二日俄日二帝トオーステルリツニ戰テ又大ニ之ニ捷ツ此戰ノ後俄  
帝兵ヲ引テ自國ニ歸リシカハ日帝フランス又和ヲ佛ニ請ヒ日耳曼

ノ帝號ヲ去テ壤地利ノ帝ト稱ス是ニ於テ英俄互援ノ路絶エタリ○ピッ  
ト性固多病加フルニ連年國事ニ勤勞シテ身軀衰憊シ日耳曼ノ敗報ヲ  
聞ニ及テ人ニ語ケテ曰ク今ヨリ十年ノ間歐洲ノ地圖ハ尙ホ用ヰル所ナ  
シト大洲ノ戰爭ニ心ヲ費ス千八百六年一月廿三日竟ニ愛ヲ以テ死ス  
年四十七歲ピット要路ニ在ルコト前後二十年ニシテ尤モ清廉ナリ死ニ及  
テ家極テ貧窶遺債四方ポンドアリ議院爲ニ之ヲ代償ス○ピットノ死後  
王グレンビルヲ以テ會計總裁トシホックスヲ以テ外務總裁トシホー  
ウキックヲ以テ海軍總裁トシ其他皆新官ヲ以テ諸省ノ長ニ補ス既ニシテ  
是歲九月十三日ホックスノ死スルニ會ヒホーウキック外務總裁ニ轉シトマ  
ス、グレンビルト云フ者海軍ノ長タリ○是歲ノ間那波列翁其兄シヨセ  
四一四フヲ以テチーブルスノ王トシ又其弟ルイスヲ以テ和蘭ノ王トシ以多  
五利ノ南部ヲ十二侯國ニ分ケテ悉ク其寵臣ヲ封シ又日耳曼ノ西南十四部

四 合シテライオンノ聯邦ト名ツケテ佛國ノ指揮ヲ受ケシム初千八百五  
六 年那波列翁ノ日耳曼ニ入ルトキ李瀛生獨リ同盟ニ加ラス戰ノ後佛帝ハ

ノイブルヲ贈テ其報トセシカ此時佛國英ト和ヲ議シ其中ハノイブル  
ヲ英ニ還サントノ約アリ李王之ヲ聞キ怒テ兵ヲ舉ク然レモ十月十四  
日セナ及オーエルスタットノ二所ニ於テ大ニ佛軍ノ爲ニ破ラレ兵起テ  
ヨリ未タ半月ヲ出テサルニ又和ヲ請ヒタリ○千八百七年ホーウヰク舊教  
ノ徒ヲ許シテ海陸軍ニ用キント議シ其議合ハサルヲ以テ官ヲ罷ム是  
ニ於テグレンビル等モ亦罷メラレポルトランドノ侯某會計總裁ニ  
任シテ首輔ト爲リカノンクト云フ者外務總裁ニ任シ其他黜陟尙多  
シ○是歲英國始メテ奴隸ヲ貿易スルコトヲ禁ス凡ソ西洋諸國ニ於テ奴  
テ來ルコト遠ク其種類モ亦甚多シ然レモ近世專ラ奴隸ト稱スルハ多  
ク亞非利加ノ土人ニシテ千五百年ノ頃葡萄牙人其亞非利加屬地ノ黑  
奴ヲ亞墨利加ニ輸送シ西班牙人ニ賣テ新地開墾ノ用ニ充テシヨリ之  
ヲ賣買スルコト起レリ英國ニテハエリサベスノ世ニ始メテ其貿易ヲ

允許ス其法亞非利加ノ西岸ニ互市傷數所アリテ沿海ノ土人内地ノ人  
ヲ掠メ來テ之ヲ燒酒鐵鹽又遊戯ノ具ニ易ヘ其甚シキハ買人自岸ニ上  
テ土人ヲ劫奪シ去ル者アリ而シテ之ヲ亞非利加ニ送テ諸國ノ屬地ニ  
賣ルナリ其舟中密室ノ中ニ閉鎖セラレ、ヲ以テ海上ニ死スル者大抵  
ハ百中ノ二三十人ノヲ買フ者之ヲ鐵鎖ニ繫テ地ヲ闢キ野ヲ耕 是ヨリ先  
二十餘年ノ間頻ニ其不仁ヲ唱ヘ屢其禁ヲ院中ニ建議スル者アリト雖  
未タ行ハルス是歲シラルクソン等又之ヲ建議シ討論稍久シクシテ二院  
ノ評定ヲ經三月廿五日終ニ王ノ許可ヲ得タリ後千八百十一年律ヲ定  
メテ曰ク禁ヲ犯ス者ハ十四年ノ追放ヲ以テ之ヲ罰セント同廿四年又  
之ヲ嚴ニシ論スルニ海賊ヲ以テシ死刑ヲ以テ之ヲ處ス然レモ三十七  
年ニ至テ又之ヲ改メ方今ハ終身之ヲ追放ス○是年土耳其俄羅斯ト兵  
ヲ構ヘ尋テ又英ト絶ス那波列翁飛語ヲ作テ三國ノ交ヲ離間セルコ因  
四ルナリ後七月七日俄羅斯モ亦佛ト和シ李瀛生ト共ニ諸國ノ英ニ貿易  
七スルコトヲ禁シテ英ヲ窘窮セントス此和約中那波列翁李瀛生ヲ割テ

四 其一分ヲサクソニノ部長ニ與ヘ又一分ヲ以テウエストハリアノ王國  
八 其建テ其弟ゼロームヲ封シテ王トス是ニ於テ孛瀟生ノ版圖ハ舊時ノ  
半ニ過キス初孛王ハノーブルニ垂涎シ私利ヲ挾テ同盟ニ加ラス是ニ  
至テ全歐洲皆之ヲ快トス○時ニ北方諸國又悉ク佛ニ脅從セラレ噠馬獨  
之ニ與セスト雖諸國ノ間ニ攝セラレテ其意ヲ行フコト能ハス英國其  
軍艦ノ敵ノ用ト爲ランコトヲ懼レアルジュール、ウエルスレー、后ウエルリント  
侯トヲ噠馬ニ遣リ暫ク其軍艦ヲ假テ之ヲ護ランコトヲ請フ然レ噠馬  
稱スヲ噠馬ニ依テ九月五日途ニコベンハーゲンヲ火攻シ強ヒテ之  
王ノ聽カサルニ依テ九月五日途ニコベンハーゲンヲ火攻シ強ヒテ之  
ヲ奪フ是ニ於テ噠馬モ亦英ノ敵タリ○千八百八年那波列翁葡萄牙ヲ  
陷イレ尋テ西班牙王チャールズ第四世ヲ廢シジョセフヲ以テ其王トス二  
國ノ民兵ヲ起シテ之ニ反キ英ノ救ヲ請ヒケレハ英國乃チウエルスレー  
ヲ一萬ノ兵ニ將トシテ葡萄牙ニ遣テ八月廿一日大ニ佛人ヲビミラ

ニ破ル尋テ英國ダリンプルヲ遣テウエルスレーニ代ラシメシカダ  
ルリンプル無能ニシテ機ヲ失ヒ佛人ト約ヲ立テ、從容トシテ退カシ  
ムウエルスレーハ功アリテ賞セラレテ諸將ニ屈下スルヲ耻テ後獨英  
ニ歸レリ其後十一月英將ジョン、ムール二萬人ヲ以テ西ニ入り進テサラ  
マンカニ至リシカ西人期ヲ愆テ來會セズ時ニ那波列翁ノ軍八萬其將  
スールトト共ニ西班牙ニ在リムール其敵ス可ラサルヲ見テ軍ヲ還シ  
コロナニ至ル比ヒスールトノ軍追從シ來リケレハ千八百九年一月十  
六日反戦シテ兵士ノ乗船ヲ扞護シ其身巨丸ノ爲ニ胸ヲ碎カレテ死ス  
然レモ晩ニ至テ佛軍潰走シケレハ十八日英軍間ヲ得テ船ニ乘シ纒ニ  
覆敗ヲ免レタリ○千八百九年春ウエルスレー再ヒ葡萄牙ニ上陸シテ  
四 四月廿二日リスボンニ入り後數日スールトトオポルトニ戰テ之ヲ破  
九 其軍ヲ追テ竟ニ西ノ境ニ入り西將グアイタト合シテアラベラニ陣

○二四  
ス七月廿六日佛將ビクトルセバステアコー等來テ之ヲ攻メ三日ニシ  
テ邑ヲ奪フコト能ハス廿八日晚ニ至テ佛軍兵ヲ退クウエルスレノ功  
ヲ以テウエルリントンノ侯タリ然レモ佛軍ノ將ビクトルスールトネー  
モルチール等其兵二十萬人又タラベラニ向テ四聚シケレハ英軍再ヒ退  
テ葡萄牙ヲ保ス○是歲煥帝又兵ヲ起シテ又破ラレ十月十四日シエンブ  
カーンニ和ヲ約シ其女マリアヲ以テ那波列翁ニ嫁ス初煥地利ノ兵ヲ  
起スニ當テ英國之ヲ聲援セントカザムノ侯及海軍少將ストラチヤンニ  
氷陸ノ軍ヲ附シテアントウエルフニ遣リシカニ將返撓ニシテ機會ヲ失  
ヒ幾ニ二千萬ポンドノ金ヲ費シテ寸功ヲ奏セス○千八百十年王ノ心疾  
復起リ是ヨリ死ニ至ル迄愈ニス世子ゼオルシヲ以テ攝政トス○是歲  
ノ間佛將マッセナ九萬人ヲ以テウエルリントンシト西班牙ニ對峙ス時コウエ  
ルリントンノ兵七萬ニ超ユト雖多クハ葡人ニシテ怯懦用ヲ爲サス九

月二十七日佛兵トシールラデボッサコニ戰テ之ヲ追卻セシカマッセナボ  
イアルバノ山路ヲ繞テ英軍ノ左ニ出テケレハウエルリントン又退キ十  
月八日トランス、ベドラスニ入テ之ヲ保ス此地ハ山川圍繞シテ三層ヲ  
爲シ層後ニ邑アリ英人險ニ據テ堡壘ヲ設ケ甚防守ニ便ナリ後三日マッ  
セナ退ヒ至リシカ其攻ム可ラサルヲ察シ又兵ヲ引テ去レリ○初千八  
百六年那波列翁ベルリニヨリ令ヲ出シテ諸國商人ノ英ト往來通商ス  
ルコトヲ禁シ其後俄羅斯李滬生等ト約シテ其禁ヲ強フ故ニ英國モ亦  
禁ヲ出シテ佛ト諸國トノ通商ヲ絶テリ然ルニ亞墨利加合衆國ハ全ク  
局外ニ在テ其船之カ爲ニ辱ヲ受クル者間多シ又英國ノ水夫逃亡シテ  
亞國ニ至ル者英人亞船ニ入テ恣ニ搜索シ本土ニ歸テ籍ニ復セシム其  
四問亞人ニシテ誤テ脅從セラレ舟中苦役ニ服スル者アリ此等ノ爭端數  
一二年ノ間論難決セス千八百十二年英人亞國ノ爲ニ通商ノ禁ヲ去リシカ

二四 亞人既ニ晩シト謂テ遂ニ兵ヲ搆フ是歲亞ノ陸軍大將ヒュール二千五百  
人ヲ以テカナダニ入伐セシカ英將ブラック撃テ之ヲ卻シ○千八百十一  
年ウエルリントン再ヒベドラスヨリ出テ是ヨリ三年ノ間スールトマルモ  
ントシールマン等ト相追逐ス所謂ベニンシラノ戰ト稱スル者ニシテ  
奇勳偉烈實ニ少カラズ然レモ事蹟繁劇ナルヲ以テ今之ヲ詳載セス千  
八百十一年五月三日英軍大ニ佛軍ヲヒュンテス、デ、オノロニ破リ同十二  
年一月十九日シゴット、ロドリゴヲ取り同四月六日バダジヨスヲ取り後マ  
ルモントヲサラマンカニ破テ遂ニマドリットニ入り十三年六月シゴセフ  
及シヨールマンヲビットリアニ破テビラチスノ山路ヲ奪ヒ十月進テ佛ノ  
境ヲ超ユ是ニ於テスールトバヨンチニ退キ歲ノ既ニ關ナルヲ以テ兩  
軍暫ク戰ヲ息メ冬ヲ過コス○千八百十二年那波列翁俄羅斯ニ入テ大ニ  
敗レ十二月十八日夜單身巴勒ニ逃歸シ其從行ノ軍五十萬人生還スル

ヲ得ル者僅ニ三萬餘人アリ然レモ同十三年那波列翁拮据綢繆シテ又  
三十五萬ノ兵ヲ募リ日耳曼ニ入りシカ時ニ歐洲諸國群起シテ之ニ敵  
シ那波列翁ノ軍屢利ヲ失フ十月十六日大ニレイブジクニ戰ヒ同十八  
日又同地ニ戰テ佛軍一敗地ニ塗レ那波列翁僅ニ其軍ノ四分一ヲ以テ  
ライン河西ニ退キタリ是ニ於テ諸國使ヲ遣リ和ヲ勸ムレモ那波列翁  
尙ホ和ヲ請ハス千八百十四年俄羅斯季漏生埃地利瑞典チープルス等ノ  
諸國兵ヲ合シテ佛ニ入ル那波列翁支戰スルコトニタヒ月ヲ閱シ三月  
三十一日同盟ノ軍遂ニ巴勒ニ入りケレハ那波列翁ハホントンブル  
ニ避ク尋テ四月十一日那波列翁佛ノ帝位ヲ去リ同盟諸國之ヲエルハ  
島ニ移シ故王ルイス第十六世ノ弟ルイス第十八世ヲ立テ佛王トス英  
二四 國ハ此約ニ與ラサリシカ後五月三十日英埃佛俄等ノ五國會盟シテ和  
三 ヲ講シ兵ヲ罷ム英國之ニ由テマルタ錫蘭喜望峯等ヲ得タリ○千八百

四十四年二月ウエルリントン再ヒ兵ヲ動カシテ益々内地ニ入リスールトノ  
兵トオハセスガローン等ニ轉戰シテ四月十二日トローロスノ邑ニ入  
リシカ是日午後巴勒ノ報至テ那波列翁禪位シ故王ノ統國ニ復スト傳  
ヘケレハウエルリントン乃兵ヲ引テ西班牙ニ還リヘルシナントナ位ニ  
復シテ後竟ニ英ニ凱旋ス是ニ至テウエルリントン外國ニ在ルコト五年  
ナリ其歸ルニ及テ國人其功烈ヲ頌賛シテ已マス議院其爵ヲ進メ五十  
萬ポンドヲ贈テ其勞ニ報ス○千八百十三年及十四年ノ間亞人再ヒカナ  
ダニ攻入シテ又利アテス初十二年ノ舉ヨリ前後三回ニ及ヘトモ遂ニ  
功ヲ成サス亞人ノ死傷通計五萬ニ及ヘリ千八百十四年西班牙ノ兵解  
ケシガ本國政府之ヲ亞墨利加ニ轉送シケレハ英ノ大將ロース其兵ヲ  
以テ八月十五日華盛頓ヲ陷イレ上下議院及其他一切諸公廨ヲ燒燼ス  
然レモ九月ロースバルチモールヲ攻メテ之ニ死シ尋テ十二月新オル

リンスニ戰テ又利アテス十二月廿四日兩國ノ使節ゲート和ニ會盟  
シテ終ニ兵ヲ罷ム○千八百十五年一月英法字俄瑞西葡八國ノ公使  
ビイリオンナニ會シテ歐洲ノ後事ヲ議ス然ルニ會後數日忽急報アリテ  
曰フ那波列翁エルバチ逸去シテ又佛ニ上陸スト會員之ヲ聞テ直ニ又  
戰テ議シ五月諸國ノ軍六十餘萬道ヲ分ケテ佛國ニ攻入セントス此警  
報倫敦ニ達スルニ當テ英國議院モ亦會ヲ開ケリ時ニウエルリントン英  
ノ公使トシテビイリオンナニ在リ書ヲ本國ニ寄セテ那波列翁ノ誓ヲ破  
リ義ニ背クヲ責メ同盟ニ加ハルヘキコトヲ勸メケレハ議院其議ニ從  
ヒウエルリントンヲ白耳義ニ遣テ便宜ニ從ヒ軍事ヲ經理セシム那波列  
翁ハ三月一日カン佛ノ港名ヨリ上陸シ都府ニ向テ進ミケレハ滿國ノ將士  
相將キテ途上ニ迎附スル者織ルカ如シ四月十九日夜ルイス都ヲ出テ  
五二四 遁走シ翌日那波列翁之ニ代テ府内ニ入り立ニ二十二萬ノ兵ヲ得タリ

四 那波列翁之ヲ分ケテ六軍トシ同盟軍ノ未ダ集ラサルニ及テ一軍コトニ  
六之ヲ破ラント六月十四日其一軍ヲ率キテ白耳義ノ境ヲ超ユ是時李滯  
生ノ軍モ亦白耳義ニ在テリグニ屯シ英軍ハ之ニ隣リテカトルブ  
ラニ在リ十六日那波列翁チ一チシテカトルブラニ向ハシメ自李ノ軍  
ヲ襲テ之ヲ擣破スウエルリントンハ敗レスト雖李軍潰走シケレハ其連  
逃チ懼レ李將ブルケルト明日ワルテルロニ相會セント約シテ十  
七日又軍ヲ退ク是日那波列翁ハ別將グロッセニ命シテ李軍ヲ追ハ  
シメ自李ノ軍ト合シテ英軍ノ後ニ尾シ同日薄暮兩軍ワルテルロ  
ニ至テ相對スワルテルロハ白耳義中ノ一小村ニシテブリニッセルスチ  
南ニ距ルコト五里許村前ニ曠野アリテ小山連亘セリ英軍其高處ニ就  
テ布陣シ其右前ニホーゴーマントト名クル村邸アリ左前ニラハイエ、  
サインテノ農園アリ並ニ兵ヲ分ケテ之ヲ護ス英軍歩兵五万人騎兵一

萬二千砲數百五十六門那波列翁ハ歩兵四萬九千人騎兵一萬六千大砲  
二百四十六位ウエルリントンノ陣ヲ距ルコト半里ニシテ又阜上ニ陣セ  
リ十八日午前第十時佛軍始メテ動キ一ハホーゴーマントニ向ヒ一ハ  
サインテニ向ヒ那波列翁ハ阜上ニ止テ中軍ノ戰ヲ指麾ス斯テ日正ニ  
午ニ加ハル時三所ノ戰一時ニ酣ナリ那波列翁ブルケルノ未ダ至ラサ  
ルニ及テ先ッ英軍ヲ破ラント頻ニ兵ヲ放テ英ノ中堅ヲ犯シ反襲數回ス  
レニ英軍方陣ヲ作テ之ヲ迎ヘ堅牢ニシテ破ル可カラス其他兩所ノ戰  
時ヲ移シテ佛軍纔ニサインテノ周牆ヲ奪テ之ニ據ルノミ是日李軍ハ  
グロッセニ退ハレテ終日ウエイブルニ戰ヒシカブルケル兵ヲ分ケ  
テ之ニ當ラシメ自餘衆ヲ率キテ此際ワルテルロニ到著ス午後第七  
四時佛軍ノ右ニ當リ轟然トシテ遙ニ砲聲アリ候騎忽チ報シテ云フ李軍大  
七ニ至ルト須臾ニシテ李ノ一將ビュロウト云フ者其部下ヲ以テ佛軍ノ右



四後ヲ環繞ス那波列翁之ヲ視テ益急ニ英軍ヲ摧破セント左右ヲ顧ミソ  
八兵士既ニ疲困シテ用ヰル可カラズ唯那波列翁殊ニ愛撫スル所ノ親  
衛兵是日後拒ニ在テ未<sup>タ</sup>戰ハス那波列翁乃<sup>チ</sup>之ヲ呼ヒテ<sup>一</sup>ニ附シテ又サ  
インテ<sup>ニ</sup>襲ハシムサインテモ亦稍高所ニ在リ英軍山頂ノ後ニ潛伏シ  
テ砲丸ヲ避ケシカ敵既ニ頂上ニ近ツクニ及テ起立シ敵ノ擺開セント  
スルニ乘シテ一齊ニ發銃スルコト一回煙下ニ銃槍ヲ以テ突下シケレ  
ハ佛軍互ニ相蹂躪シ山ヲ下テ亂走シタリ是ニ於テウエルリント<sup>ン</sup>令ヲ  
傳ヘテ諸隊齊シク進マシム此間李軍益至テ佛ノ右翼ヲ破リ日暮佛兵  
遂ニ大ニ敗績ス初那波列翁ウエルリント<sup>ン</sup>ノ名ヲ聞キ一タヒ之ニ逢テ  
其武ヲ比センコトヲ欲セシカ是日始メテ會戰シ又遂ニ之カ爲ニ破ラ  
ルト云フ那波列翁阜上ニ在テ戰ヲ指揮シ佛軍ノ擊却セラル、毎ニ囊  
中ノ煙草ヲ櫻テ地ニ擲ソコト一回親衛兵ノ亂レ退クヲ見テ傍人ヲ顧

テ曰ク大事去レリト單騎馬ヲ飛シテ戰場ヲ逸去シ二十一日曉倉皇巴  
勒ニ歸入ス是ニ於テ計盡キ力屈シ位ヲ其子ニ讓テ世ヲ退カント請ヒ  
シカ同盟諸國之ヲ許サス後十餘日英李ノ軍進テ巴勒ニ近ツキケレハ  
那波列翁海ニ航シテ亞墨利加ニ逃レントロチホルトノ海口ニ至テ躊  
躇スルコト數日其逃ル可カラサルヲ知テ竟ニ身ヲ英ノ軍艦ニ投シ是  
歲十月同盟諸國ノ議ヲ以テヘレナ島ニ流サル是ニ於テ佛國ノ大難始  
メテ平キタリ其亂始メ起リシヨリ是ニ至ル迄二十二年ノ間諸國ノ起  
伏一ナラス李滯生ハ携貳迎合シテ僅ニ其國ヲ存シ輿地利ノ如キハ四  
タヒ兵ヲ起シテ四タヒ和ヲ請ヘリ全歐洲中終始挺然トシテ其勇武ヲ  
辱シメサル者ハ獨リ英國ノミナリ那波列翁屢水陸ノ軍ヲ調シ英ニ入ラ  
四ント謀リシカ其必勝ヲ期セサルヲ以テ竟ニ兵ヲ加ヘスト云フ○大洲  
九擾亂ノ間英ノ國內ハ大抵安穩ナリ其海軍ノ他國ニ超ルヲ以テ海上ノ

三四 通商モ亦全ク廢スルニ至ラス但頻年ノ征戰ニ因テ歲用支ヘス戰初國  
○三 債ノ數尙ニ二億三千萬ニ滿タカリシモ千八百十五年二月ノ計算ニ據レ  
ハ八億萬ノ多キニ至レリ且亂後物價騰貴シ貿易凋委シテ產ヲ失フ者  
亦甚シトセス是歲糶麥ノ法ヲ設ケ内地ノ麥價八十シルリノグチ超ユ  
ルコアラサレハ他國ノ產ヲ輸入スルヲ禁セシカ民間大ニ是法ヲ不便  
トシ荒僻ノ地方往々事ヲ生スル者アリ○千八百十六年英將ペルリユー  
軍艦二十五艘ヲ以テ亞非利加ニ至リアルジールスチ攻ムアルジール  
スハ亞非利加海岸ノ一部落ニシテ海賊ヲ業トシ是ヨリ先戰爭ノ間海  
上ニ往來シテ屢諸國ノ船ヲ劫掠セルニ因テ其罪ヲ問フナリ八月廿七  
日砲戰スルコト數時ニシテ悉ク港中ノ砲臺ヲ焚毀シペルリユー土酋ニ迫  
テ和ヲ結ビ歐洲ノ囚虜千餘人ヲ放釋セシム○千八百二十年一月廿三  
日王遂ニ心疾ヲ以テ死ス年八十二在位六十年ナリ長子セオルジ之ニ

繼テ立ツ○王ノ在位ノ間百藝大ニ進ニ發明甚多シ千七百八十八年英  
人バトリッキマイレハト云フ者始メテ瀛氣ヲ以テ船ヲ行ル法ヲ發明ス  
後千八百七年亞人ヒュルトント云フ者其法ニ原テ瀛船ヲハドソン河ニ  
浮ヘアルハニー及ニユーロクノ間ニ往來ス是レ瀛船ヲ實際ニ用サル初  
ナリ又千八百七年始メテ倫敦ニ煤氣燈ヲ制シ滿都地下ニ伏道ヲ設ケ  
テ煙ヲ導キ夜間之ヲ照シテ燭ニ代フ英人ノ支那ト交通ヲ開ギタルハ  
此王ノ世ニ在リ是ヨリ先東印度商社ノ買人往々支那ノ海岸ニ至テ内  
地ノ民ト貿易スルコトアリト雖未ダ政府ノ允許ヲ得ルニ非ス千七百九  
十二年英國マセルトニート云フ者ヲ公使トシテ支那ニ遣リ兩國政府  
始メテ約ヲ結ビ通商ヲ開ケリ

改英史卷十

ハノーブル記下

正七位大島貞益 纂譯

〔セオルシ第四世〕王ハ先王ノ長子ニシテ是時年五十八歳先王病ニ罹テ  
ヨリ國ヲ監スルコト是ニ至テ十一年ナリ故ニ位ニ昇テ朝廷ノ制度改  
變スル所ナシ時ニ禍亂ノ餘害漸ク去テ貿易復起シ四隣事ナク國內昌  
榮ナリ踐祚ノ初一兇漢チストルウードト云フ者黨ヲ結テ諸執政ヲ殺  
シ亂ヲ作サント謀リシカ事洩レテ捕ヘラレ其黨五人刑ニ伏ス○王ノ  
世子タリシ時色ニ溺レテ身行修マラス先王其放心ヲ収束センコトヲ  
欲シブリュンスウキ<sup>キ</sup>ノ侯ノ女カロリンヲ迎ヘ強ヒテ世子ニ婚セシカ仇  
四 儼情薄クカロリン惡名ヲ負テ他國ニ往キ離居シテ既ニ十六年ヲ過ク  
三 是歳王ノ位ニ昇ルヲ聞キ歸テ后タランコトヲ求メシカ王其前罪ヲ數

ヘテ見ユルコトヲ許サス千八百二十一年七月十九日ウエストミンスト  
 ルニ於テ即位ノ禮アリ本日カロリン其儀衛ヲ觀ント寺門ニ至リシニ  
 衛士阿責シテ入ルコトヲ許サスカロリン慚愧シ後八月七日遂ニ憤怨  
 ナ以テ死ス○時ニ舊教ノ諸禁ヲ去ル説最モ民間ニ盛ナリオコンチルト  
 云フ者會社ヲ結テ民心ヲ諷動シカンニングト云フ者下院ニ在テ頻ニ  
 之ヲ主張ス然レモ王弟ヨルシノ侯上院ニ在テ之ヲ力阻シ王モ亦之ヲ  
 好マス其他ウエルリントンピールエルドン等有識ノ士ト雖之ヲ拒ム者  
 アリ千八百二十五年會計總裁ノ闕クルニ因テ王強ヒテカンニングヲ  
 擢用シケレハウエルリントン等怒テ官ヲ退キ其説益盛ナリ然レモ後八  
 月カンニング病ヲ以テ死シケレハロビンソント云フ者代テ會計總裁  
 タリ○千八百二十一年希臘土耳其ニ叛キ是歲ニ至ル迄數年勝敗決セ  
 ス千八百二十七年英國佛俄二國ト共ニ希臘ヲ援ケテ十月耳日土耳其

トナハリノノ海灣ニ戰テ大ニ土耳其ノ軍艦ヲ破碎ス後千八百二十九  
 年希臘遂ニ國ヲ立テ、パ、リアノ王子オツヲ以テ其君トス然レモ土  
 耳其剽剝セラレテ俄人ハ竊ニ志ヲ得英佛ニ在テハ失策タリ后英人モ  
 亦自之ヲ悔ユト云フ○千八百二十七年一月ロビンソン死シテウエルリ  
 ントノ之ニ繼ギピール隨テ國事總裁タリ是歲テスト及コルボレーシヨ  
 ンノ二律ヲ廢ス此律ハチャールス第二世ノ世ニ定ムル所ニシテ國教ノ  
 徒ニ非ル者ハ一切官ニ就クコトヲ禁スル律ナリシヨンリユセルト云フ者  
 之ヲ下院ニ建議シウエルリントンピール首トシテ之ヲ拒ミシカ遂ニ其  
 議ニ從ヘリ尋テ翌年悉ク舊教ノ諸禁ヲ廢シ舊教ノ徒ヲ許シテ議院ニ入  
 ラシム然レモ其徒尙攝政タルコトヲ得ス又愛倫ノ都督タルコトヲ得  
 ス且ツ王位ハ必ス國教ノ徒ヲ以テ繼ガシメテ君主舊教ノ徒ヲ娶ルコトヲ  
 得サル等ノ禁ハ尙存セリ○千八百三十年六月廿六日王死ス年六十八

四 在位十一年ナリカロリント離異シテヨリ別ニ后ヲ納レスカロリノ  
六 腹ニ一女アリシカ王ニ先クテ死シ王弟ヨルクノ侯モ亦既ニ死セル  
ヲ以テ次弟クラレンスノ侯之ニ繼立ス○蒸氣機關ノ發明以來世間智  
巧ノ學士之ヲ水陸ノ運輸ニ轉用セントシテ各巧思ヲ極ムレヒ之ヲ陸  
車ニ用ケルハ殊ニ難クシテ其試驗屢損敗シ汽船ノ世ニ行レテヨリ數  
年ノ後尙成功ナシ千八百二十九年又リブルプル及マンチエストルノ  
間ニ鐵道ヲ鋪カント企ツル者アリ金ヲ懸ケテ新器ヲ募リシカ其募ニ  
應スル者四人アリ中ニ就テロベルトステッヘンソント云フ者ノ製スル  
所最巧緻ナルヲ以テ乃之ヲ兩地ノ間ニ往來シテ始メテ旅客貨物ヲ運  
送スルコトヲ得タリ又王ノ在位中始メテメナイ河上鐵懸橋ノ工ヲ起  
シ又テイムス河底ヲ鑿テ隧道ヲ通ス  
シロクスメンション

〔ウナルレム第四世〕王ハセオルヨ第三世ノ第三子ニシテ幼ヨリクラレン

スノ侯ニ封セラレ是ニ至テ統ヲ受ク年既ニ六十五歳ナリ○初メ民員選  
貢ノ制定マリテヨリ年ヲ經ルニ隨ヒ盛衰地ヲ換ヘテ其法宜ヲ失ヒ荒  
村寒郷ニシテ代員ヲ貢スル者アリ巨港富府ニシテ或ハ之ヲ貢セサル  
者アリ甚シキハ昔時ノ盛邑今ハ廢土ト爲テ一豪農其遺址ヲ占メ一人  
ニシテ數名ヲ貢スル者アリ國人久シク之ヲ釐正シテ其源委均一ナラ  
ンコトヲ欲シ其議下院ニ出テ、ヨリ是ニ至ルマテ幾シト五十年ノ間紛々  
決セス王ノ位ニ即テ後一月佛王チャールス印行ノ自由ヲ奪ハントシテ  
國人大ニ亂レチャールス英ニ來奔シテ其弟ルイス、ヒリップ佛王タリ是ニ  
由テ英人心動キ改革ノ說益々喧シ然レヒ王及ウエルリントン等皆之ヲ好  
マス是秋倫敦ノ邑宰其家ニ宴ヲ張リ王ノ親臨ヲ請ヒシカ行ニ臨テウエ  
ルリントンニ告クル者アリテ云フ今日ノ行多ク衛兵ヲ隨フ可シトウエ  
ルリントン之ヲ聞テ危疑ヲ生シ王ニ勸メテ其行ヲ止ム是ニ於テ上下

七三四

四 嫌疑シ十一月ウエルリントン以下諸執政皆官ヲ辭シケレハグレイト云  
八 三 者代テ首輔ト爲リタリグレイハ就新黨ノ巨擘ナリ故ニ其黨人隨テ  
登庸セラレ千八百三十一年三月院中ニ於テ改革ノ議ヲ建テシカ其見  
公會ト組織スルヲ以テ行ハレヌグレイ乃チ會ヲ解テ議員ヲ改撰セシム  
時ニ民間改革ノ說愈逼リ六月新徵ノ議員都下ニ至ルニ及テ循舊黨ノ  
人ハ幾何モナシ故ニ其議成リ易ク是月廿六日議案下院ノ決ヲ經テ上  
院ニ輸シ、ニ上院之ヲ受ケス往復數回々後其要所ニ於テ一二ヲ變易  
セントシケレハ下院怒テ終ニ其議ヲ罷ム是ニ於テ怨讎群起シ小民亂  
ヲ作シ權貴ノ邸宅毀壞セラレ、者多シ後千八百三十二年三月議案又  
下院ノ決ヲ經テ上院ニ輸サントス英國ノ舊例上院固執シテ變セサル  
時ハ王新ニ世爵ヲ命シ之ヲ院中ニ加ヘテ其議ヲ破ルコトアリ今回ノ  
議案グレイ又上院ノ爲ニ卻ケラレシコトヲ憂ヒ王ニ勸メテ此計ヲ用

キントセシカ王之ヲ許サス諸執政則怒テ連署辭職シ都鄙愈洶々タリ  
然レモウエルリントン等變ヲ激センコトヲ懼レ本日他ノ貴族數十人ト  
謀テ會ヲ避ケシニヨリ六月議案遂ニ上院ヲ經タリ其大略古來ノ市邑  
居民二千ニ滿タサル者ハ今ヨリ代員ヲ貢スルコトヲ得ス二千ヨリ四  
千ニ至ル者ハ一人ヲ貢セシム是ノ如クニシテ減スル所ノ數百四十三  
名アリ之ヲ以テ新市邑或ハ繁殖ノ諸州ニ分賦シ大小多寡各宜シキヲ  
得セシム又代員ノ選ニ與カル者皆財産ノ多寡ニ隨テ限制アリ此律中  
亦大ニ其額數ヲ減シ田舎ニ居ル者ハ地租一歲五十ポンドヲ出シ市邑  
ニ居ル者ハ屋租一歲十ポンドヲ出ス者皆選ニ與カルコトヲ得セシム  
○千八百三十三年二月新法ニ循テ撰貢スル所ノ議員始メテ倫敦ニ會  
シ此會中英國本地及諸屬土ニ於テ奴隸ヲ畜フコトヲ禁ス初千八百七  
九三四 年奴隸ノ貿易ヲ禁スト雖當時現ニ畜ヘル所ノ者ハ一時生計ニ窮セン

○四四  
コトヲ恐レテ遽ニ之ヲ散セス然レモ其中妻ヲ迎ヘ家ヲ成シ子孫ニ世  
襲スル者アリテ之ヲ禁スルニ非レハ其源ヲ絶ツコト能ハス故ニウエル  
ベルホールズ等建議シテ悉ク之ヲ放釋セシム其數幾ト八十万人議院二千  
万ポンドヲ出シテ主者ノ損失ヲ償フ然レトモ主者尙ホ産ヲ失フ者アリ  
加フルニ諸屬土耕夫ノ數ヲ減スルニ由テ田野荒蕪シ一時其害甚鉅大  
ナリ○千八百四年グレノ罷メテレメルボルト云フ者首輔ト爲  
リ其議ヲ用キテ賑救ノ法ヲ修正ス英國ヘンリー第八世ノ時ヨリ一  
リシ法教區コトニ賑救ノ吏ヲ置キ資本ヲ富有ノ者ニ募テ貧人ヲ養ヒ  
又工場ヲ設ケテ自業ヲ營ムコト能ハサル者ニ業ヲ授クル法アリ然  
レモ其弊遊惰ノ風ヲ長シ自立ノ心ヲ薄クシ富家ハ益々重累シテ貧民益々  
多シ加フルニ前數十年ノ間事ヲ行フ者ノ無狀ニ依テ費用支ヘスゼオ  
ルシ第二世ノ世ニ於テハ其費七十五万ポンドニ過キサリシカ千八百

一四四  
十八年ニ至テハ増シテ八百萬ポンドニ至レリ是歲公會中其規則ヲ更  
張シテ冗費ヲ淘汰シ又貧人ノ道路ニ行乞スルヲ禁シ倫敦ニ一公廨ヲ  
設ケテ地方ノ庶務ヲ統ヘ皆其指揮ヲ待テ施行セシム時ニ又邑官推選  
ノ法改革アリ是ニ至ル迄市邑ノ官吏ハ皆民撰ナリシカ議員ノ撰貢ト  
同シク財産ヲ以テ之ヲ限リ富饒ノ者獨リ專ニスル弊アリ故ニ其財産ノ  
數ヲ減シテ豪戶ノ跋扈ヲ抑損ス○王在位ノ間ハ就新ノ說盛ニシテ諸  
執政其黨ニ非レハ大抵位ニ在ルコトヲ得ス其末年循舊黨稍氣勢ヲ復  
シピールメルボルト云フ者ニ代テ首輔ト爲リシカ議院中尙ホ之ニ  
抗スル者多ク纔ニ二月ニシテ官ヲ罷メメルボルト又入テ執政タリ  
時ニオ、コンチル點智ニ長シ小民ノ中ニ權勢アルヲ以テメルボルト  
等ニト維持シテ循舊黨ヲ抑ヘピールウルトン等ハ奄々トシテ屏  
息スルノミナリ○千八百三十七年六月廿日王死ス年七十三在位七年

四ナリ王二女アリシカ皆長育セス其姪ビクトリアヲ以テ位ヲ繼カシム  
二〔ビクトリア〕王ハゼオルジ三世ノ第四子ケンノーノ侯エドワルドノ女  
ニシテサクス、コベルグノ部長ノ女ビクトリアヲ娶リ千八百十九年五  
月廿四日王ヲ生メリ是ニ至テ適ニ十八歳ヲ至ク先王死シテ宜シク  
立ツ可キ者ハ王ノ父エドワルドナリシカ千八百二十年エドワルド既  
ニ死スルヲ以テ王ヲ冊立セリハノーブルノ國法ハ女子位ヲ繼クコト  
ヲ得ス故ニ別ニゼオルジ三世ノ第五子エルチストヲ立テ王トスハ  
ノーブルゼオルジ一世ノ時ヨリ英ニ合ス是ニ至ルマテ七十七年ニ  
シテ又分ル〇是歳カナダ人亂ヲ作シテ獨立ヲ謀リ亞人ノ援ヲ請フ然  
レモ亞人助ケス英人兵ヲ出シテ之ヲ討シ容易ニ撲滅スルコトヲ得タ  
リ是ヨリ先カナダ分レテ上下二州ト爲リモントリール、ケベック各其首  
府タリシガ亂後之ヲ合シテ一トシ府ヲモントリールニ移シテ地方ノ

事ヲ管轄セシム〇時ニチャルチストト名ツクル一黨國中ニ彌漫シテ大  
ニ議院ノ制度ヲ改革セントス其徒主持スル所ノ條目五條アリ曰ク凡  
成人ハ皆議員ヲ撰ムニ預ルコトヲ得ヘシ議員ヲ撰ムハ投票ヲ以テス  
ヘシ議員ハ年々改撰ス可シ議員ニ俸給ヲ與フ可シ撰ニ應スル者ハ財  
産ヲ以テ之ヲ限ル可ラスト其徒大抵ハ傭夫工人ノ類ニシテ未ダ亂ヲ作  
スニ至ラスト雖千八百三十八年及九年ノ間秋歛ノ豐足ナラサルニ乘  
シ處々ニ屯聚シテ黨ヲ募リ政ヲ議シ大ニ政府ノ憂ヲ爲セリ千八百三  
十八年秋其徒大ニマンチェストルニ聚リシカ其數二十万人ニ下ラス翌  
年又大ニ倫敦ニ會シ書ヲ作テ議院ニ訴フ其書大約數百千葉之ヲ大桶  
ニ盛り地上ニ轉輾シテ議院ニ至リシニ議院之ヲ受ケス是ニ於テ其徒  
四方ニ散漫シテ暴虐ヲ行ヒ官舎邸宅等其禍ニ罹ル者多シ時ニ又アン  
チ、コロン、ロウト名ツクル一黨アリコロン、ロウハ糶麥ノ法ニシテアン



四四四 | 予ハ之ヲ拒ムナリ是ヨリ先英國本土ノ耕作ヲ勸奨スル爲ニ法ヲ設ケ  
テ本地ノ麥價某以上ニ至ルニ非レハ外國ノ産ヲ糴賣スルコトヲ禁セ  
シカ之カ爲ニ内地ノ麥價常ニ騰貴シテ動モスレハ飢歎ヲ生シテ工商  
其害ヲ蒙ルコト最多シ故ニ此輩マンチエストルニ於テ會ヲ結ヒ國人ヲ  
風誘シテ終ニ其禁ヲ去ラントス其中コブデント云フ者首トシテ事ヲ  
用キ甚ダ權柄アリ○是ヨリ先英ノ商船鴉片ヲ支那ニ輸シテ茶葉ニ易フ  
支那ノ政府屢之ヲ禁スレモ其令行ハレヌ千八百三十九年道光十  
徐兩廣ノ都督ト爲リ英ノ商館ヲ圍テ賈客ヲ逐ヒ其鴉片二萬餘函ヲ焚  
棄ス英國怒テ之ヲ詰ルト雖林則徐屈セヌ是歲二國遂ニ兵ヲ構フ○千  
八百四十年二月十日王サクス、コボルグノアルベルトト婚スアルベル  
トハ王舅エルチストノ第二子ナリ其國ヲ保タサルヲ以テ議院之ヲ英  
籍ニ編入シテ三十萬ポンドノ歲俸ヲ獻シ國人之ヲクワイーン、コンソル

トト稱スクワイーンハ女王ナリ○是歲英國書ヲ支那帝ニ寄セテ和ヲ  
勸ムレモ支那其書辭ノ不遜ヲ責メテ之ヲ受ケヌ英軍乃楊子江ヨリ甯  
波ニ至ル迄哨船ヲ置キ海口ヲ塞テ之ヲ困ス後千八百四十一年英將エ  
ルリオット即義律又國書ヲ持シテ海ヨリ北河ニ入り聲言シテ曰ク  
直ニ北京ニ迫テ自帝ニ謁セント是ニ於テ支那人大ニ懼レ天津ニ於テ  
和議ヲ開キシカ琦善ト云フ者支那ノ商議ヲ司リ詭譎ニシテ論辨決セ  
スエルリオット怒テ復戰ヲ議ス○是ヨリ先國人メルボルン等ノオコ  
ソチルト結托スルヲ賤テ之ニ服セヌ千八百四十一年ノ公會ニ至テ循  
舊ノ黨過半ニ居リシカハメルボルン等遂ニ官ヲ罷メテピール又首  
輔ヲリ其他執政多ク黜涉アリウエリントンモ亦政院中ノ一員ニ命セ  
ラレシカ官ヲ保タス後オコンチルモ亦政ヲ議シ國ヲ蠱惑スルニ坐シ  
テ捕ヘラレシカ既ニシテ又放釋セラレ後千八百四十七年セノアニ死

四四四

四四〇千八百四十二年ヘンリー・ポッチンゼルト云フ者支那ノ通商事務總  
六督トシテ澳門ニ在リ廈門鎮江定海寧波上海等ヲ陷イレンテ七月楊子江  
ヲ上リ直ニ南京ノ城下ニ抵リ帝ノ手書ヲ得テ和ヲ議セント請フ然レ  
ニ城中依違シテ答ヘス八月十四日黎明英將既ニ進撃ヲ令スルニ至リ  
帝手書ヲ出シテ和ヲ請ヒケレハ英軍乃兵ヲ止メ尋テ是月二十九日遂  
ニ和成テ兵ヲ罷メ支那六百萬ポンドヲ出シ軍費ヲ償ヒ新ニ廈門福州  
上海寧波廣東ノ五港ヲ開キ香港全嶋ヲ割テ英ニ讓與ス〇千八百四十  
五年夏ヨリ秋ニ涉リ陰霖連旬風雨屢至リ歲大ニ熟セス愛倫ノ馬鈴薯  
病ヲ生シ凶荒尤甚シ是ニ於テアナンチ、コロン黨ノ説益行ハレシヨ、リニッセ  
ルモルベス等ノ諸人首トシテ頻ニピールヲ責ムピールモ亦時勢ノ止  
ム可カラサルヲ察スレニ其黨人ノ譏ヲ懼レテ禁ヲ去ルコト能ハス遂  
ニ自請テ官ヲ退キケレハ王乃リニッセルヲ徵シテ之ニ代ヘシカ又其推服

ナル者少キヲ以テリニッセル官ニ在ルコト能ハス尋テピール又職ニ復シ  
千八百四十六年一月遂ニ院中ニ建議シテ其禁ヲ除ス然レニ其黨人ハ  
大ニ此事ヲ悅ハス是ヨリピール大ニ勢ヲ失ヒ後久シカラスシテ遂ニ  
又職ヲ辭シリ、モル代テ首輔ト爲レリ〇千八百四十七年愛倫又大ニ饑  
饉シ小民亂ヲ作ス政府金穀ヲ發シテ賑救スレニ鎮靜セス既ニシテ亂  
魁相繼テ縛ニ就キケレハ亂徒時ヲ經テ漸ク消散ス翌年チヤルチスト又  
倫敦ニ於テ亂ヲ謀リ其徒二萬餘人ケンニントンノ野ニ屯聚セシカウエ  
ルリントン命ヲ受ケテ之ヲ鎮撫シ倫敦ノ市民十五萬人踴躍シテ出テ  
禦キケレハ亂徒震懼シ又戰ニ及ハスシテ平定セリ〇千八百五十一年  
英國始メテ博覽會ヲ設ケ大ニ萬國ノ異寶名器及新奇ノ物品ヲ集メテ  
四展觀ス其舉王ノ夫アルベルトノ創意セル所ニシテ其意諸國ノ工藝ヲ  
七戰ハシムルニアリ倫敦中ハイドバルクト名ツクル公園ニ於テ大玻璃

四宮ヲ作り其中地球上ノ緯度ニ隨テ各國ノ方物ヲ排列シ五月一日ヨリ  
八場ヲ開クコト凡ソ百六十日其事ノ奇ナルト其結構ノ大ナルトヲ以テ四  
方ヨリ來觀スル者層至蝟集シテ六百萬人ノ多キニ及フト云フ○千八  
百五十二年九月ウエルリントン死ス侯沈勇雍和ニシテ兵ヲ用ヰルコト  
神ノ如クマルボロト其名ヲ齊シクシテ而シテ其狡詐反覆ナシ晩年  
首輔ト爲ルニ至テハ其持論往々議ス可キ者アリト雖又能ク意ヲ枉ケ  
テ人ニ從ヒ相衝擣スルニ至ラス死ニ及テ議院公財ヲ以テ葬儀ヲ理シ  
遠近相傳テ葬ニ會スル者沿途實ニ立錫ノ地ナシト云フ○千八百五十  
三年俄羅斯土耳其ト宗教ノ事ヲ爭ヒ俄羅斯コンスタンチノプルノ希  
臘教徒ヲ管轄シ且教徒ノ爲ニゼリコサーレム等ノ地ヲ據有セントシテ  
遂ニ兵ヲ擣フ然レモ俄羅斯ノ意ハ土耳其ヲ亡ホシテ南海ニ出ツレニ  
在リ俄帝ニコラス英ノ中立センコトヲ欲シ其公使ニ説テ曰ク事成ラ

ハ埃及ヲ以テ英ニ讓ラント然レモ英國之ヲ許サス時ニ佛國那波列翁  
第三世新ニ位ニ即テ英ト好ヲ修シ交際甚親善ナリ故ニ二國軍艦ヲ黑  
海ニ遣テ土耳其ノ爲ニ其北境ヲ防護シ俄ニ勦メテ兵ヲ罷メシメント  
セシカ是歲冬英佛俄土ビインナニ會シテ和ヲ議シ其議遂ニ破レケレ  
ハ翌年夏英佛兵ヲクリミアニ進メ九月廿日俄人チアルマニ破テ遂ニ  
セバストボールチ合圍ス時ニ俄人ノ港中ヲ守ル者六萬人マンスキコ  
フト云フ者之ヲ號令シ其前久シク戰備ヲ修セシヲ以テ要害甚完シ英  
軍ハ二万三千ラグラント云フ者之ニ將トシ佛軍二万五千アルナウド  
之ニ將トシテ十月ヨリ攻戰ヲ開キ砲聲殷々トシテ連旬絶エス是月廿  
五日城將リプランジト云フ者三萬人ヲ率ヰテハラクラバノ英軍ヲ  
襲ヒシカ劇戰時ヲ移シテ英軍之ヲ擊却ス十一月五日朝俄人又大霧ニ  
乘シテ圍ヲ突キ英人チインケルマンニ襲フ英人銃槍ヲ以テ接戰スル

○五四  
コト凡十一合英ノ兵數ハ俄人ニ及ハサルコト十ノ一ナリ然レトモ勇  
戰シテ退カス時ニ佛將アルナウド既ニ死シテカンロベルト之ニ代リ  
兵ヲ分ケテ來援シケレバ俄人遂ニ大敗シテ城中ニ退キタリ是日英佛  
ノ死傷數千人俄人ノ喪フ所ハ英佛ノ全軍ニ齊シ是ヨリ後ハ俄人壁ヲ  
固クシテ出テス城中城外唯大砲ヲ放テ日ニ相攻撃スルノミザリ是冬  
ノ間攻兵高地ニ陣シテ日ニ海風ニ曝サレ凍饑シテ命ヲ隕ス者數ヲ知  
ラス城中ノ援兵モ亦數千里ノ氷雪ヲ超エテ至レル者ニシテ大半ハ皆  
用キル可カラス時ニ英國ニナイチンガルト名ツクル一女子アリ本國  
ニ在テ士卒ノ寒苦ヲ聞キ伴ヲ結ヒ軍中ニ至テ衣垢ヲ洗ヒ傷人ヲ看護  
ス士卒皆感激シ泣テ恩ヲ謝スル者アリト云フ千八百五十五年春攻兵  
連營ノ間ニ鐵道ヲ舖キ瀛軍ヲ馳セテ軍中ノ輜重ヲ運輸ス又黑海ニ電  
信線ヲ沈メテ直ニ本國ニ達シケレハ巴勒及倫敦ノ報復皆一日ニシテ

辨ス○前年ノ間英ノ海軍大將チビール軍艦ヲ率ヒテバルチック海ニ往  
來セシカ大ニ爲ルコトアラヌ千八百五十五年ドンダスト云フ者之ニ  
代リシカ又記ス可キ者ナシ別ニエドモンドライオンスト云フ者數艘  
ノ船ヲ以テアソフ海ニ入りケルチニコル等ノ數邑ヲ奪ヒケレハセ  
ハストポールノ勢孤立シ城中漸ク困弊ス○是歲俄帝ニコラス死シテ  
其子アレキサンドル二世之ニ嗣キシカ父ノ意ヲ繼テ兵ヲ罷メス六  
月英ノ攻兵ノ將ラグランコレヲ忠ヒテ死シケレハ大將シンブソン  
ト云フ者之ニ代テ攻圍ヲ督シ尋テ佛軍モ亦ペリシールト云フ者來テ  
カンロベルトニ代リタリ斯テ九月五日ヨリ攻兵又大舉シテ城ニ逼リ  
砲戰スルコト三日ニシテ八日ニ至リマラコフト名ツクル壘壁少シク  
崩潰シケレハ佛軍ノ一隊蟻附シテ壁ヲ攀チ遂ニ之ヲ奪フ是日英軍モ  
亦レダント名ツクル別堡ヲ奪ヒ敵ヲ驅逐シテ暫ク之ニ據リシカ後軍

一五四

四五二

續キ至ラスシテ又退却セラレタリ然レモ佛人マラコフヲ得テ邑中ニ  
狙撃シケレハ俄人竟ニ守ルコト能ハス同日夜色ヲ棄テ、退走ス俄人  
退クニ臨テ軍器ヲ收メ去ルニ及ハス其大砲四千門彈丸十萬火藥數千  
桶皆攻兵ノ手ニ落ツセバストポール前年九月始メテ圍チ受ケシヨリ  
是ニ至テ全一周歲ナリ戰後英佛ノ兵邑ノ廢址ニ幕ヲ張テ冬ヲ過シ、  
カ俄人疲困シテ再兵ヲ出スコト能ハス千八百五十六年一月煥帝ノ周  
旋ニ依テ和議成リ爾來俄土二國共ニ黑海中ニ軍艦ヲ置カサランコト  
ヲ約シ三月諸國ノ使節巴勒ニ會盟シテ戰ヲ罷ム○千八百五十六年又  
支那ト隙アリ廣東ノ官吏英ノ商船一艘ヲ襲奪ス英國之ヲ詰責スレモ  
報ヲ得ス是冬遂ニ兵ヲ發シテ廣東及ホグノ諸城ヲ奪フ○クライブ及  
ハスタンクスノ時ヨリ印度ノ屬地日ニ廣大ニ爲リ是時ニ當テインヂ  
ス河道及ヒマラヤ山派ヲ限リ東ハ緬甸ニ境シテ其幅員迺ニ英ノ本地

四五三

ヨリモ大ナリ是ヨリ先東印度商社土人ヲ募テ隊伍ニ編シ富盛ノ地ニ  
備ヘテ鎮兵ト爲シ、カ土人ハ大抵回教ヲ奉シテ深ク牛豚ノ類ヲ禁忌  
ス然ルニ此頃施條統始メテ印度ニ至リ其藥包皆軟膏ヲ塗レリ土兵包  
上ノ膏ハ或ハ牛豚ノ脂肪ナランコトヲ疑ヒ之ヲ用ヰルヲ屑トセス既  
ニシテ軍中訛言アリテ曰ク英人密ニ土兵ヲ強ヒテ耶蘇教ニ從ハシム  
ル計アリト千八百五十七年五月ベンガルノ兵隊遂ニ其將官ヲ逐テデ  
ルヒニ至リ古蒙古ノ王族ヲ擁シテ印度帝ト稱シ英ニ反セシカ所々ノ  
兵隊相續テ蜂起シ須臾ニシテベンガルノ全軍皆反徒ニ加ハリタリ是  
ヨリ先東印度會社土人ニ憑信シテ全ク英兵ヲ置カス故ニ歐洲各國皆  
英國ノ久シカラスシテ全印度ヲ失ハンコトヲ危メリ六月英ノ將官其  
老幼婦女ト共ニカウンポールニ在リ亂徒數重ニ之ヲ圍ミシカ城中食  
盡キ兵寡クシテ守ルコト能ハス攻兵ノ將サヒヅト云フ者固英人ト交

四四五  
リアルヲ以テ守將ウ<sup>キ</sup>レ<sup>ル</sup>之ニ憑テ降ヲ請ヒケレハサヒフ之ヲ諾シ  
約シテ曰ク攻兵舟ヲ辨シテ城中ノ男女ヲアルラハバ<sup>ド</sup>ニ護送セント  
然レモ廿七日約成テ英人既ニ舟ニ乘スル頃岸上忽チ大小砲ヲ雨發シ英  
人擒獲セラル、者百五十人其他ハ悉ク舟中ニ殺サル後英ノ別軍カウ<sup>ン</sup>  
ポ<sup>ール</sup>ニ迫ルト聞キ土人又其捕撈ヲ屠殺セリ時ニリ<sup>ク</sup>ノ<sup>ウ</sup>モ亦重圍  
ノ中ニ在リハブ<sup>ロ</sup>ク<sup>ト</sup>云フ者之ヲ赴援セント僅ニ二千餘人ヲ以テ轉  
戰スルコト八回ニシテ遂ニカウ<sup>ン</sup>ポ<sup>ール</sup>トリ<sup>ク</sup>ノ<sup>ウ</sup>ノ間ニ至リ又大  
ニ土兵ヲ破リシカリ<sup>ニ</sup>ク<sup>ノ</sup>ウニ達スルニ及テ兵衆羸弱ニシテ戰フ可カ  
ラサルヲ以テ邑中ニ入り僅ニ堡砦ヲ墨守ス然レモ九月ニ至テ本國ノ  
兵漸ク到著シ是月廿一日英將ウ<sup>ル</sup>ソ<sup>ント</sup>云フ者<sup>レ</sup>ヒ<sup>チ</sup>復シ後カン  
ブ<sup>ベル</sup>ト云フ者<sup>リ</sup>ク<sup>ノ</sup>ウノ圍ヲ潰ヤシ年末ニ至テ亂全ク平ラキタリ  
是ニ至ル迄東印度ハ尙<sup>ホ</sup>商社ノ有ニシテ倫敦ニ商社ノ本局アリ社中ヨ

リ一人ノ總督ヲ印<sup>度</sup>及ニ遣テ其事務ヲ管轄セシメ又政府ニホ<sup>ー</sup>ル<sup>ド</sup>、<sup>オ</sup>  
フ、コン<sup>ト</sup>ロ<sup>ー</sup>ル<sup>ト</sup>名ツクル一局ヲ置テ商社ノ事ヲ統ヘシカ亂後終ニ  
商社ヲ廢シ印度ヲ以テ直ニ政府ニ隸ス○千八百五十八年英人佛帝那  
波列翁ヲ刺殺セント謀ル者アリ時ニバルメルスト<sup>ー</sup>ント云フ者首輔  
トナリ之ヲ捕ヘテ佛ニ謝シ且此ノ如キ徒ヲ處スル法ヲ嚴ニシテ將來  
ヲ懲サントセシカ其議行ハレス議院其佛ニ諛ルヲ責メケレハバルメ  
ルスト<sup>ー</sup>ン職ヲ辭シテ<sup>ル</sup>ベ<sup>ー</sup>之ニ代リタリ○千八百五十八年議員財  
産ノ限制ヲ廢シテ貧富ニ論ナク皆撰ニ應スルコトヲ得セシメ又猶太  
教徒ヲ許シテ議員ヲラシム○是歲六月支那ト天津ニ於テ和ヲ講シ五  
條ヲ約シテ曰ク英ヨリ公使ヲ命シテ北京ニ居クベシ爾來耶蘇教徒ヲ  
虐スルコト勿ルベシ英人<sup>ト</sup>那<sup>ノ</sup>内地ニ往來スルコトヲ許ス可シ英船  
揚子江ニ航スルコトヲ得ヘシ約後一年內ニ鎮江港ヲ開クヘシト又曰

四ノ支那百二十五萬ポンドヲ出シテ半ハ廣東買客ノ損失ヲ償ヒ半ハ戰  
費ニ供ス可シト然レモ翌年六月英佛ノ使節帝ノ署押ヲ得ント北京ニ  
至ル途中支那人太沽ノ諸堡ニ潛伏シテ其護衛ヲ掩撃シケレハ英人不  
意ニ出テ殺傷セラレ、者甚多シ是ニ於テ英佛大ニ怒リ再ヒ兵ヲ出シテ  
海岸ノ諸城ヲ陷イル○千八百六十年英佛兵ヲ連テ天津ヲ奪ヒ十月  
十三日遂ニ北京ヲ陷イレ咸豐帝亂ヲ熟河ニ避ク尋テ前年天津ノ議ニ  
循テ和ヲ講シ支那金ヲ出シテ太沽ノ役ニ死スル者ヲ吊シ且コウルー  
ンヲ英ニ讓テ兵ヲ罷ム○是歲デルベール職ヲ辭シバルメルストーン再  
ヒ首輔タリ

今邨亮校

改正英史卷十終

英史附錄

王族

英ノ王統ハ男女ヲ擇マズシテ必ス血胤ノ最近キ者ヲ以テ嗣ト定ム然レ  
モ其正統ヲ距ルコト相齊シケレハ男ヲ先ニシ女ヲ後ニス或ハ先王ノ  
子ニ長女及ヒ次男アレハ男ヲ先ニシ而シテ後順ヲ以テ女子ニ推及ホス  
其繼承甚ダ嚴ニシテ決シテ次ヲ踰エスウヰルム第一世ヨリ今千八百七  
十三年ニ至ルマテ三十五王八百十四年其女子ノ統ノ入テ立ツ每ニ其  
家ヲ以テ朝ニ名ク故ニ朝名ヲ革ムルコト五回ナレモ其實ハ一系ナリ  
政府ノ庶務ヲ大別シテ立法行法ノ二トシ王ハ其二課ノ長官ニシテ國  
會中上下兩院ノ議員ト共ニ法律ヲ議定シ之ヲ施行スルニ至テハ王獨  
之ニ任ス故ニ國會ノ開閉徵遣官吏ノ黜陟及外國ノ和戰交際等皆王ノ  
意ノマ、ニシテ其權甚重大ナリ加フルニ君王ノ行フ所枉濫アルコト

七五四

四五八

ナシト云フコト其國法ノ一トナリテ臣民敢ヘテ君王ヲ議スルコト能ハス是レ蓋シ中古君主專權ノ遺弊ニシテ極メテ事ニ害アリ然レモ近世漸ク方術ヲ設ケテ之ヲ収束シタルヲ以テ名ハ甚重大ナリト雖其實ハ甚限アリ假令ハ和戰ノ權ハ君主ニ在リト雖軍資ヲ納ル、權ハ國會ニ在リ故ニ君主輿論ニ悖テ兵ヲ起スコトアレハ國會軍資ヲ抑ヘテ之ヲ納レヌ又國會君主ノ非ヲ揚クルコト能ハスト雖執政ノ職ハ君主ヲ輔導スルニ在ルヲ以テ君主過アレハ則テ國會之ヲ執政ニ責メ已ムコトヲ得サレハ之ヲシテ職ヲ解カシム故ニ稱シテ行法官長ト曰フト雖大事ニ至テハ殆ト其意ヲ行フ地ナク每事唯議院ノ意ヲ承奉スルノミナリ上古ハ王家ノ公邑ト名ツクル者アリ又諸侯ノ代襲嫁娶等アル毎ニ金ヲ納ル其他諸雜ノ貢稅ヲ以テ一切政府ノ用ニ充テシカ中世封建ノ制衰フルニ及テ政府ノ費用ハ議院ヨリ之ヲ獻納スルコト、爲リ其中ヲ

四五九

以テ王家ノ私費ヲ辨セリ其後ウヰルム第三世ノ入立スルニ及テ此等ノ法制大ニ整ヒ始メテ政府ノ公費ト王家ノ私費トヲ分テリ其額數ハ世々同シカラス千七百七十七年議院ノ定ムル所ニ據レハ九十萬ポンドナリ然レモ當時ハ之ヲ以テ官吏及外國公使ノ俸給等ヲ辨セシニヨリテウヰルム第四世在位ノ時之ヲ以テ公費ニ移シ歲額ヲ減シテ五十萬ポンドトセシカ今王ニ及テ又之ヲ減シテ今ハ三十八萬五千ポンドナリ其中王家ノ内帑家隸ノ俸給其老退スル者ノ恩養銀及惠恤ノ諸費等又皆定額アリテ王皆之ヲ恣マ、ユスルコトヲ得ス一歲ノ總額ヲ庫部ノ長官ニ托シ置キ其監視ヲ受ケテ之ヲ出納シ其出額四十萬ポンドニ超ユルコトアレハ三十日內ヲ限リ之ヲ詳計シテ議院ノ點檢ヲ受ク其他ランカストルハ古ヨリ王家ノ公邑ニシテ今尙王ニ直隸シ其歲入凡五萬ポンドアリ



○六四后以下ハ皆人臣ノ列ナリ然レ后ハ尋常ノ人妻ト同シカラス法律ニ於テハ之ヲフエリールト名ツク即チ有夫ノ婦人ニ對スル語ニシテ女子一家ノ主タル者ニ視フルナリ故ニ后ハ土地ヲ有スルコトヲ得又之ヲ賣ルコトヲ得ル等他ニ異ナル特權アリ世子ハ之ヲ威爾斯ノプリンス小國ノ君ニト稱シ又世々コルンワルノ公ニ封セラレ又多クハチエスト用ナル稱ニト稱シ又世々コルンワルノ公ニ封セラレ又多クハチエストルノ伯爵ヲ兼ヌ方今チエストルト威爾斯トハ虛封ト爲リタレト獨リコルンワルノ公ニ至ルマテ尙其實ヲ存セリ王ノ庶子ハ大抵貴族ニ列シ又ハ僧トナルコト常ニシテグローストル及ニルン等ノ公爵ニ封セラレ者最多シ是等ハ固ヨリ人臣ナリト雖其禮遇稍異ナル者アリ王子王ノ兄弟王ノ叔父及王ノ兄弟姊妹ノ子ハ餘ノ公爵ノ上ニ位シ以下ハ皆順ヲ以テ位ヲ定ム

世子ノ歳俸ハ別ニ議院ヨリ獻納スル者アリ今ハ其數四萬ポンドニシ

テコルンワルノ歳入ト合セテ凡ソ十萬ポンドナリ其他庶子ノ俸金ハ王家ノ定額中ヨリ分ケテ之ヲ給與ス

貴族

貴族ハ三種ニシテ世襲ノ者アリ一世ノ者アリ官ニ因テ得ル者アリ世襲ノ者ニ古來ノ貴族ト王ヨリ新ニ封セラレトノ二アリ一世ノ者ハ皆新封ノ者ナリ官ニ因テ得ル者ハ其在官ノ間貴族ニ列スル者はナリ古ノ貴族ト稱セシ者ハ封土ヲ保チ城郭ヲ擁シテ全ク我邦往時ノ諸侯ト異ナラカリシカ今ハ虛封ニシテ某地ノ公伯ト稱スルモ唯其名アルノミナリ殊ニ近來ハ内外ノ地ヲ問ハスセルビスカセント、ビンセント、ナイル河ノ戰ニ勝チテナイルノ男ニ封セラレタル如キ直ニ其戰勝ノ地ニ封シテ其功ヲ記ス者甚多シ其今ノ制度ニ變シタルハ蓋シチヤールス第二ノ世ニ在リテ其前ハ封建ノ遺弊尙存在シテスチユアルト諸王ノ間貴族其請求ニ堪ヘス故ニ復王ノ歳終ニ古昔兵役ノ

四六 法ヲ廢シ其封土ヲ改メテ尋常私有ノ土地ト爲シ、ナリ故ニ方今貴族

ノ特權ハ其身上院ノ一員ト爲リ又犯罪アリト雖議院直ニ之ヲ糾彈シ  
テ尋常法術ノ審理ヲ受ケサル等數事ニ過キスシテ其他ハ庶人ト異ナ  
ルコトナシ但封土ノ制變シテヨリ其遺地ヲ守テ未ダ散佚セサル者ハ往  
々巨萬ノ富ヲ擁スル者アリ

王ハ新ニ貴族ヲ命スル權アリ是レ亦遺弊ノ一ニシテ甚ダ時勢ト合ハス又  
王一議ヲ起シテ之ヲ國會ニ下ス時上院之ニ從ハサレハ王驟ニ數十名  
ノ寵臣ヲ抽テ貴族トシ之ヲ上院ニ遣シテ其議ヲ覆ヘスコトアリセオ  
ルシ第一ノ世ソンドルランドノ首輔タリシ時其執政之ヲ以テ不當ノ  
特權トシテ永ク貴族ノ數ヲ定メントノ議ヲ起シ、カ上院ニ於テハ其  
議容易ニ行ハレタレモ下院之ニ與セス蓋シ議案既ニ下院ヲ經テ之ヲ上  
院ニ輸スルニ上院之ニ與セサルヲ以テ王新ニ貴族ヲ命シテ其論ヲ覆

ヘスハ王ト民ト皆其議ヲ好ミテ獨リ上院ノミ服セサル時ナリ然ルニ貴  
族ノ數永ク定マリテ復ダ其論ヲ覆ヘスコトヲ得サレハ君民既ニ是トス  
ル計議モ僅カ一上院ノ爲ニ敗ラル、ナリ是名ハ其權ヲ殺クト雖其實ハ  
之ヲ固クスルナリ故ニ國人今ニ至リテ其議ノ成ラカリシヲ喜フト云  
フ

### 執政

政府中庫部、内務、外務、植民、印度、陸軍、海軍ノ七官ヲ置テ其長官ヲセクレ  
タリト名ク又外ニ貿易、賑救、郵便、教育ノ四司アリ皆政府ニ直隸スル  
者ナレモ其權ハ右ノ七官ニ一等ヲ遜ルモノニシテ之ト並立セス是等  
ノ長官ヲ總稱シテミニストリト云フ即執政ノ義ナリ又別ニハイ、チャ  
ノヒ、コレ、樞密院ノ議長、尙小吏等ノ數官アリ皆政府ノ大臣ニシテ右ノ  
三六四  
七官四司ノ長ト共ニ之ヲ内閣ト名ツク内閣ノ中ニハ又王ノ特命ヲ以

四六四  
テ選抽セラレ別ニ官職ナクシテ庶政ニ參議スル者アリ然レモ其例ハ  
多カラス且、近來ハ執政ト云ヒ内閣ト云フモ殆、區別ナシ此中トヤノモ

ルハ舊官ニシテサクソノ頃ヨリ既ニコレアリ古代ハ王ヲ輔佐シ百  
官ニ臨ミテ大相國ノ如キ官ナリシガ、ミコストルノ制起テヨリ以來實  
權自庫部長官ニ歸シテ此官今ハ殆、常職ナシ方今ハ庫部長官必首輔ヲ  
兼テ大璽ヲ尙リ諸執政ノ上ニ位スルコト定例トナレリ

凡、執政ヲ命スルニハ王先、獨リ首輔ヲ選ミ餘ハ首輔ニ命シテ之ヲ選任セ  
シム故ニ一時ノ執政ハ大抵皆其首輔ノ黨人ニシテ首輔ノ名ヲ舉ケテ  
之ヲ某氏ノ執政ト呼ヒ首輔過チアリ或ハ議論ノ行ハレサルヲ以テ官  
ヲ去レハ諸執政皆隨テ退職シ更ニ首輔ヲ命シテ新ニ内閣ヲ編立ス若シ  
其首輔職ニ就テ後衆望ヲ得ス内閣ヲ編立スルコト能ハサルトキハ大  
ニ其首輔ノ恥トス又内閣悉ク一黨派ノ人ナラサルコトアリ此時ハ議論

分裂シテ必久シキコト能ハス之ヲ雜駁執政ト名ツケテ亦首輔ノ恥辱  
トス執政ヲ命シ及之ヲ罷ムル權ハ共ニ王ニ在テ其黜陟王之ヲ恣ニス  
ルコトヲ得レモ議院ニ亦其罪ヲ論スル權アリ執政王ニ比黨シテ曲事  
ヲ行ヒ或ハ其議論國會ト合ハサレハ議院其職ヲ責メ王ヲシテ之ヲ廢  
黜セシム故ニ執政議院ニ得ラレサレハ官ニ在ルコトヲ得ス王亦時ノ  
黨人ニ非レハ之ヲ用サルコト能ハス

議院

議員ノ代選貢進上下兩院ノ區別高僧貴族ノ分類等ハ本文中處々ニ提  
出ス故ニ復、此ニ贅セス今唯、院中議事ノ大畧ヲ説クヘシ千八百七十年  
ノ記ニ據ルニ上院中ノ議員ノ總數四百五十六名トス餘ハ貴族ナリ下  
四院ノ數六百五十二名アリ國會ヲ開ク前王トヤノニ命シテ檄テ國  
五六  
內ノ貴族、高僧、及州牧、邑宰、其他撰貢ニ與カル官吏ニ移シ某日ヲ期シテ

四議員ヲ來會セシメ本日ニ至テ王親ヲ儀衛ヲ整ヘテ上院ニ臨ミ悉ク上下  
六兩院ノ議員ヲ徵聚シテ國會ヲ開ク所以ノ意ト會中議スヘキ事ノ大概

トヲ演フ然レモ會中議スル所ノ事ハ必シモ王ノ言ニ拘ハラヌ一タヒ  
國會ヲ開ク後ハ院中ニ議スル所ノ事ヲ外ヨリ牽制シ得サルコト議院  
ノ法ニシテ議事ノ初故ラニ他事ヲ議シ其權ヲ示スコト例トナレリ此禮  
畢テ後上院ハ一二日間會ヲ撤シ下院モ常規ノ事一二條ヲ終ヘテ休會  
ス此ニ於テ國會始メテ開キ是ヨリ閉院或ハ解放ニ至ルマテ日コトニ  
會合スルナリ凡ソ會中ノ議事ハ下院ニ原ツクモ可ナリ亦上院ニ原ツク  
モ可ナリ但貢稅軍資等ノ如キ金貨ニ關リタル議案ハ必下院ニ基ツカ  
スハ有ル可カラヌ又外人請書ヲ作テ院中ニ捧クルコトアリ然レモ大  
抵ハ執政ヨリ建議スルコト最多シトス凡ソ一事ヲ建議セントスル者ハ  
先ッ帽ヲ脱シテ其席ニ立テ議長ニ向テ我ニ某ノ事アリ今之ヲ建議シテ

可ナリヤ否ヲ問ヒ且ツ其事ノ大意ヲ演フ時ニ一人他ニ起立シテ我レ其議  
ヲ贊翼スト云フ者アレハ議長則之ヲ受クヘシヤ否ヲ會中ニ問ヒ會員  
ノ許ヲ得レハ其建議者ト贊者トニ命シ之ニ數名ノ議員ヲ加ヘテ其議  
案ヲ草セシム但議案ハ他ニ一人以上ノ贊者ナケレハ受クヘカラス是レ  
一人ノ協同スル者ナキ無用ノ冗論ニ時間ヲ費サンコトヲ懼ンテナリ  
議案既ニ成レハ議長先ッ之ヲ書記官ニ附シテ高ク宣讀セシメ而シテ后  
少間ヲ經テ再之ヲ宣讀シ即日議事ニ及フコトアリ然レモ大抵ハ數日  
ノ後ヲ期シ其間議案ヲ印刷シテ議員ニ頒ツコト常ナリ第二回ノ宣讀  
ノ後議員各ト議長ニ向テ其可否ヲ陳シ或ハ會員自之ヲ添削スルコトア  
リ或ハコンミッタート名ツケテ院中ノ數員ヲ選ミ之ニ議案ヲ附託シテ  
四其情實ヲ審查シ其文章體裁ヲ改竄セシムルコトアリ或ハ全院ヲ解テ  
七六  
コンミッタート爲スコトアリ此時ハ固ヨリ本會ト異ナラスト雖唯院中

四ノ規則ニ縛セラレヌシテ更ニ詳論熟議スルコトヲ得故ニ事重大ニ涉  
ハル時ハ往々此法ヲ用ヰルコトアリ此間之ヲ院中ノ討論ト名ツケテ屢  
大議論ヲ生シ往々數十日決セス討論ノ間ハ議員ノ顧念スル所ナク言  
論スルコトヲ許シ其忌諱ニ觸ル、ヲ以テ之ヲ捕逮スルコトヲ得ス又  
議院互ニ院中ノ言ヲ啣テ之ヲ院外ニ報復スルコトヲ許サス斯テ添削  
修正畧定マリテ後又之ヲ宣讀シ而シテ后議長會中ニ向テ其取捨ヲ問  
フ之ヲ決スルニハ數法アリ然レモ國會中ニハ大抵二分ノ法ヲ用ヰ議  
長問題ヲ下シテ后之ヲ是トスル者ト非トスル者トヲ兩側ニ分立セシ  
メ計司ヲ命シテ之ヲ計算セシメ其成數ヲ對舉シテ會中ニ宣告ス是ニ  
於テ之ヲ非トスル者半ヨリ多ケレハ其議廢シテ其會中再之ヲ建議ス  
ルコトヲ許サス是トスル者半ヨリ多ケレハ之ヲ上院ニ贈テ其評ヲ請  
フ上院ニ於テ之ヲ議スル法ハ右ト異ナルコトナシ上院若シ之ヲ拒斥ス

ル時ハ其議法ト爲ルコトヲ得ス或ハ上院更ニ潤色ヲ加ヘテ之ヲ下院  
ニ送却スルコトアリ下院其潤色ヲ是トスレハ之ニ協同シテ再上院ニ  
送還シ又之ニ從フコト能ハサレハ兩院互ニ數名ヲ選ミ相會シテ熟議  
協同セシム是ニ至テ兩院遂ニ異ヲ執テ移ラサレハ其議或ハ廢スルコ  
トアリ然レモ議案上院ヲ經ル時ハ其題號ヲ命シテ之ヲ淨書シ是ニ於  
テ唯王ノ制可ヲ待ツノミナリ又議案上院ニ原ツク時ハ上院先之ヲ評  
決シテ下院ニ送り下院之ニ協同スレハ再上院ニ遞送シテ王ノ制可ヲ  
請フ總テ許可ヲ請フヘキ議案ハ之ヲ院中ニ疊積シ置キ會末ニ至テ一  
時ニ之ヲ上開ス

議案全國ノ公事ニ關ラス一人一社ノ私案ナル時ハ之ヲ請願スル者自  
之ヲ院中ニ捧クルコトヲ許サス必一議員ヲ倩テ紹介セシム其他ハ大  
ニ異ナルコトナシ但鐵道ヲ舖キ河渠ヲ鑿ツカ如キハ其利ヲ蒙ル者

○七四 ト害ヲ蒙ル者ト相半スル者ナリ然ル時ハ議案ヲコンミッターニ托シ利害ヲ異ニスル者ヲ並へ呼テ各其辭ヲ悉サシム此時ハ爭者各代官人ヲ用ヰルコトヲ許シ之ヲ審斷スルコト法衙ニ於ケルト異ナラス斷案成テ後之ヲ本會ニ復命シ而シテ后尋常ノ如ク其得失ヲ討論ス議案王ノ許可ヲ請フ時ハ王躬ラ上院ニ至リ下院ノ人衆ヲ徵聚シテ書記官一々議案ヲ朗讀ス王之ヲ制可スルニ其書公案ナル時ハ書記ニ命シテ言ハシメテ曰ク余モ亦是ノ如クナランコトヲ欲スト私案ナル時ハ則曰ク其欲スル所ニ任セヨト又貢税ノ議案ナル時ハ曰ク余汝等ノ惠ヲ受ケテ其好意ヲ謝シ且其議ニ協同スト又王若シ之ヲ拒却セントスル時ハ曰ク余尙ホ之ヲ熟考スヘント然レモ近來ハ王絶テ二院評定ノ議案ヲ拒却セル例ナシ其許可ヲ請フモ殆儀禮ヲ存スルノミニシテ近頃ハ書記唯議案ノ題號ヲ讀上ルノミナリ

### 法制

英國ニハ司法ノ省ヲ置カス其法衙ノ制多ク舊習ニ沿襲シテ其既ニ在ル者ハ之ヲ廢セス足ラサル者ハ新ニ之ヲ補テ唯先規ニ因リ宜シキヲ制スル故ニ錯雜シテ甚解シ難シ先國內第一等ノ審判ノ權ヲ有スル者ハ議院ニシテ土地財産ノ爭訟難結シテ解ケサル者ハ此ニ上訴スルコトアリ又執政過アリ其他大臣貴族罪ヲ犯スカ如キ國ノ大獄ハインブーイチメントト名ツケテ下院原告ト爲リ上院審官ト爲テ之ヲ裁斷ス然レモ是等ハ皆異常ノ事ニシテ其處置往々尋常ノ法衙ト同シカラス之ヲ除テ次ニ財産ノ訟ヲ司ル者ハチャンセリノー衙門ナリ此衙門ノ長官ハ即ハイチャンセロルニシテ原王ハイチャンセロルニ命シ臣民ノ冤枉ヲ受ケテ開伸スル所ナキ者ヲ覆審セシムル爲ニ設ケタリシカ今ハ其所轄甚廣シ次ニキングス、ベンチエキスチエツケルコンモンプリースノ三衙

四七二  
アリ此三衙ハ其起ル所皆同シカラスト雖今ハ其權力相齊シク其司掌  
ニモ亦全ク異ナラス各長官一名附屬ノ官四名アリテ諸般ノ争訟ヲ聽斷  
シ凡ソ上訴セントスル事アル者ハ此三衙中何レニ出訴スルモ可ナリ且ッ訟  
者其一ニ訴テ尙其裁決ニ服セサル時ハ他ノ二衙ニ控訴シテ其覆審ヲ  
請フコトヲ得又法律中疑難ノ事アリテ一衙ニ於テ決スルコト能ハサ  
ル時ハ三衙ノ審官相會シ時トシテハハイチャンセロルモ亦加ハリテ公  
議ヲ取ルコトアリ英倫及威爾斯ヲ八巡察區ニ分チ每歲春夏兩次右三  
衙ノ法官一區コトニ各二名諸州ヲ巡行シアサイズト名ツクル衙門ヲ  
開テ訴ヲ聽クコトアリ其權力ハ右ノ三衙ト異ナラス唯僻遠ニ住スル  
者ノ爲ニ其地ニ就テ裁斷シ出訴ニ便スルナリ之ニ次テ州衙ト名ツク  
ル者アリ即日常ノ小事ヲ決スル衙門ニシテ凡ソ財產ノ争五十ポンドニ  
滿タサル者ヲ裁斷シ英倫及威爾斯ノ諸市邑ニ散在シテ其數五百ニ及

ヘリ然レモ毎衙悉ク聽訟官アルコト非ス其數僅ニ六十名ニシテ一名數衙  
ヲ兼攝スルナリ其他プロベイトト名ツケテ財產貽傳ノ事ヲ司ル衙門  
アリシボルスト名ツケテ婚姻離異ノ事ヲ司ル者アリ以上二衙ハ大抵  
一法官ヲ以テ之ヲ兼ヌ又ハンクリュアシートト名ツクル者アリ商賈ノ折  
本破産スル者ヲ司ルインソルウエンシートト名ツクル者アリ審窮ニ陷テ  
逋債ヲ償フコト能ハサル者ヲ處決ス  
斷獄法衙ノ最モ高キ者ハロルド、ハイ、スチュアルドノ衙門ニシテ常ニ之ヲ  
設ケススチュアルドハ古封建ノ頃ノ一高官ナリシカ今ハ久シク廢官ト  
爲リ貴族反逆以下ノ大罪アル時特ニ上院中ノ一員ヲ選テ之ヲ英倫ノ  
ロルド、ハイ、スチュアルドト名ツケテ十二名以上ノ貴族ト共ニ之ヲ糾彈  
セシム次ニキングス、ベンチノ衙門アリ上文ニ記セル三衙中獨リ此衙門  
三ノ罪囚ノ糾彈ニ與テ諸下等衙門ノ不法ヲ監視シ又諸衙門ヨリノ控

四七四

訴ヲ覆審ス法官諸區ヲ巡察スル時ハ又刑獄ニ與ル權アリ之カ爲ニク  
 ロウン、コールトト名ツクル者ニ臨テ犯罪ノ事ヲ理治ス此衙門ノ下ニ  
 四季ノ衙門アリ次ニベター、セツシヨント名ツクル者アリ此二衙門ハ其權  
 方共ニ限アリベター、セツシヨント名ツクル者アリ此二衙門ハ其權  
 ハサル者ハ之ヲ四季ノ衙門ニ輪シ四季ノ衙門ニテ及ハサル者ハ其犯  
 徒ヲ捕収シ置テ巡察法官ノ來ルヲ待ツナリ倫敦ニハ別ニ中央犯罪衙  
 門ト名ツクル者アリテ巡察衙門ニ代リテ近地ヲ管轄シ其事務多端ナ  
 ルヲ以テ之ヲ開クコト一歲間七八回ニ下ラス又國內處々ニ檢屍衙門  
 ト名ツクル者アリ其職掌ハ長官十二名以上ノ陪審ヲ用ヰテ其急死シ  
 或ハ獄死セル者ノ屍ヲ點檢ス若シ其事實疑フヘキ者アルニ決スル時ハ  
 其決案ハ大陪審ノ決案ニ齊シ其獄ヲ斷スルニハ復々大陪審ヲ用ヰス獨リ  
 小陪審ノミヲ用ヰテ之ヲ斷ス

爭訟スルコトアラントスル者ハ自衙庭ニ出訴スルコトヲ許スト雖訴  
 訟ノ法ニ巧拙アルヲ以テ訟者代言人ヲ倩ヒ已レニ代テ幹旋セシムルコ  
 ト通習タリ代言人ニ二種ノ別アリ一チアトルニト名ツケテ衙門外  
 ノ事ヲ幹旋シ一チアドボケイトト名ケテ衙門内ノ事ヲ幹旋ス皆法學  
 ノ免許ヲ得タル學士コシテ此輩之ヲ以テ門戸ヲ張り他人ノ求ニ應シ  
 謝金ヲ得テ代訴スルコト譬ヘハ醫家ノ病ニ奔走シテ營生スルカ如ク  
 訟事ニ巧ナレハ來請スル者多ク巧ナラサレハ來請スル者少シ然レト  
 モ或ハ其巧ヲ狹ニ曲者ヲ回護シテ頗ル其弊ナキコト能ハスト云フ原告  
 衙庭ニ出テ、後第一ニ爲ヘキハ書ヲ作テ被告ヲ呼出スナリ其書ハリッ  
 トト名ツケテ被告若シ幾時日ノ内ニ衙庭ニ出テサレハ原告ノ者直チ得  
 ヘキロシチ職スル者ニシテ原告ノ代理人之ヲ書シ法官之ニ衙印ヲ押  
 シテ被告ニ與フ被告此書ヲ得レハ則衙庭ニ出テ又書ヲ以テ徵ニ應シ

五七四





四 衙門ニ候スルコトヲ報告ス是ニ於テ之ヲ二人衙前ニ在リト謂ヒ其審  
六判ニ至ル前原告被告先ツ争決スヘキ條件ヲ論定ス之ヲプリージノグト  
名ツク往時ハ甚ダ紛擾ノ事ニシテ別ニ之ヲ業トスル者アリシカ今ハ漸  
ク簡易ニ爲リテ復々之ヲ專修スル者ナシ其法原告先ツ出訴ニ至リタル所  
以及ヒ其伸明セントスル條件ノ委曲ヲ書ニ作テ之ヲ被告ニ贈リ次ニ  
被告モ亦書ヲ作り其意ヲ辨解シテ原告ニ答フ其後原告尙言ハントス  
ルコトアレハ再之ヲ論駁シ是ノ如クニシテ往復數次ニ至ルコトアリ  
其結局甲ノ言フ所乙之ニ服セス互ニ異ヲ執テ移ラサル期アリ是レ乃審  
判ヲ受クヘキ條件ニシテ之ヲイッシュエート名ツク此ニ至ルマテ訟事ヲ幹  
旋スル者ハアトルニイナリイッシュエー既ニ定マリテ後争者各其往復ノ次  
第ト組語ノ條件トヲ略記シ之ニ謝金ノ數ヲ記シテアドボケートヲ雇  
ヒ共ニ衙庭ニ訴フ總ヘテ細小ノ事件ヲ決スルニハ法官獨リ之ニ任シテ

陪審ヲ用キス巡察衙門以上ノ争訟ニハ則陪審ヲ用キテ法官ハ法律ヲ  
決シ陪審ハ事實ヲ決ス陪審タル者ハ財産ノ限アリテ至貧ナル者ハ之  
ニ加ハルコトヲ許サス州牧預制限以上ノ財産アル者ヲ調査シ其姓名  
牌ヲ作テ之ヲ一函中ニ貯ヘ置キ事アル時ハ法官其函中ニ就キ其名牌  
十二葉ヲ暗索シテ陪審ヲ編制スルナリ衙庭ノ争辨ハ時ノ景況ニ隨テ  
一定ノ規則ナシト雖其概略ヲ舉クレハ争者衙前ニ出テ、後原告ノ代  
言人先ツ其證伸セントスル事實ヲ述ヘ証者アレハ證者ヲシテ之ヲ保證  
セシム次ニ被告ノ代言人又證者ニ對シテ一々原告ノ述フル所ヲ糾シ  
又被告ニ利アルヘキ事アレハ之ヲ舉ケテ詰問スルコトヲ得ルナリ而  
シテ后被告ノ代言人其原告ノ要求ニ抗スル所以ヲ述ヘ又證人ヲ呼テ  
之ヲ保證セシム此證人モ亦原告之ヲ詰問スルコトヲ得ルナリ此事終  
テ被告ノ代言人再衙門ニ向テ其意ヲ申明シ次ニ原告ノ代言人モ亦再

四七八

其意ヲ述フ是ニ於テ法官其争訟ノ要ヲ摘テ陪審ニ告ケ其事實ノ曲直  
ヲ問フ陪審ノ答辭ヲ上ルハ其席ニ於テスルコトアリ或ハ別室ニ退キ  
熟議シテ後上ルコトアリ陪審者ノ答辭出シレハ法官之ヲ法律ニ照シテ  
之ヲ處スヘキ所以ヲ決スルナリ

罪囚ヲ糺彈スルニハ正證畧證ノ二法アリ略證ハ少許ノ贖金ヲ課シ或  
ハ一時獄ニ投スル如キ小事ニ用ヰル者ニシテ其法短簡別ニ詳記スヘ  
キ者ナシ今其正證法ヲ左ニ略説ス總ヘテ犯罪ノ疑アル人ハ先ツ巡邏ヲ  
シテ之ヲ捕逮セシメベテ<sup>セツシヨ</sup>ンノ前ニ徵致シテ畧其罪ノ有無ヲ糺  
シ若シ其深ク疑フベキ時ハ之ヲ拘留シテ四季ノ衙門或ハ巡察衙門ノ期  
ヲ待ツナリ此間或ハ之ヲ繫獄スルコトアリ或ハベイルト名ツケテ假  
ニ之ヲ放遣スルコトアリベイルハ稍我邦ノ親類預ケ等ニ類セル者ニ  
シテ犯罪者ノ罪甚重カラス其逃逸ノ虞ナキ時ハ朋友親戚ノ擔保スル者

四七九

アルヲ待テ之ニ委託スルナリ罪獄ノ陪審ニハ大小ノ別アリ其編立法  
ハ全ク争訟衙門ノ陪審ニ異ナラスト雖但大陪審ハ其數十二名ヨリ二  
十三名ニ至リ其門地モ稍高クシテ邑官ト同門地ノ豪族ヲ用ヰルヲ法  
トシ大抵ハ即其邑官ヲ以テ之ニ充ツ大陪審ノ職掌ハインダイトメン  
トト名ツクル證罪書ノ眞偽輕重ヲ決スルナリ總ヘテ犯罪ノ者アル時  
ハ州官巡邏ニ命シテ其事實ヲ探索セシメ而シテ其得タル證左ヲ衙門  
ノ定式ニ書記シタルチインダイトメントト名ツク巡察衙門ノ期ニ至  
レハ其獄ヲ開ク前法官先ツ大陪審ヲ呼ヒ悉ク證罪書ヲ之ニ附シテ其眞偽  
ヲ考定セシメ陪審某々ノ條件ニ最疑フヘキ者アルコトヲ反命スレハ  
次ニ犯罪者ヲ衙庭ニ呼ヒ出シ之ニ其條件ヲ讀ミ聞カシメテ自之ヲ知レ  
リヤ否ヤヲ問フ是ニ於テ犯罪者直ニ其罪ニ服スレハ則止ミ若シ服セサル  
時ハ小陪審ヲ徵出シテ一名ノアドボケートニ命シ證罪書ニ據テ犯罪者

四八〇 争辨セシム時ニ小陪審ノ中嘗テ犯者ト仇怨アル者アリ或ハ之ニ類  
スルコトアリテ犯者其審判ヲ受クルコトヲ欲セサル時ハ法官ニ請テ  
之ヲ斥ケ或ハ其幾名ヲ拒ムコトヲ得又犯者外國ノ人ナル時ハ半ハ英  
人ヲ用半ハ外國人ヲ用テ陪審ヲ編制スルモ可ナリ其他争辨ノ法  
ハ零争訟ニ於ケルト異ナラス斯テ争辨既ニ畢レハ法官其要ヲ撮ミ小  
陪審ニ示シテ其事ノ虚實ヲ決セシメ而シテ后法官其罪ノ大小ヲ定ム

一  
 九  
 行  
 一  
 九  
 行  
 一  
 九  
 行

二七〇丁	二五七丁	二四八丁	二四一丁	二三七丁	二三五丁	二一二丁	一四五丁	一三三丁	一三二丁	一一一丁	一一四丁	一一三丁	四一丁	三九丁
一一行	二行	四行	一行	三行	三行	五行	四行	六行	三行	九行	九行	一〇行	三行	八行
(讒)ハ	(質林)ハ	(瞻富)ハ	(虚)ハ	(粉亂)ハ	(壞中)ハ	(二人)ハ	(リチャルト)ハ	(議衛)ハ	(騰)ハ	(後)ハ	(チャールス)ハ	(服)ハ	(履)ハ	(帽縁)ハ
纒	質朴	瞻富	虚	紛亂	懷中	土人	リチャルト	儀衛	騰	後	チャールス	腹	履	帽縁

正誤

		正誤	
二七〇丁	二五七丁	二四八丁	二四一丁
二三七丁	二三七丁	二三五丁	二二二丁
二一四丁	一一四丁	一一三丁	一一二丁
一〇三丁	一〇二丁	一〇一丁	一〇〇丁
九行	九行	九行	九行
三行	三行	三行	三行
六行	六行	六行	六行
四行	四行	四行	四行
五行	五行	五行	五行
三行	三行	三行	三行
三行	三行	三行	三行
一行	一行	一行	一行
四行	四行	四行	四行
二行	二行	二行	二行
一行	一行	一行	一行
(帽縁)ハ	(履)ハ	(服)ハ	(チャールス)ハ
(後チ)ハ	(騰)ハ	(儀衛)ハ	(リチャルト)ハ
(二人)ハ	(壞中)ハ	(粉亂)ハ	(虚)ハ
(瞻富)ハ	(質林)ハ	(讒)ハ	
帽縁	履	腹	チャールス
後コ	騰	儀衛	リチャルト
土人	懷中	紛亂	虚
瞻富	質朴	讒	

二七一丁	二行	(驅逐)	驅逐
三四七丁	三行	(返逆)	反逆
全	五行	(埋伏)	埋伏
三六〇丁	一〇行	(振益)	益振
三七八丁	一〇行	(改)	攻
三七九丁	五行	(國子)	國人
四〇九丁	八行	(受倫)	愛倫
四三四丁	一二行	(耳日)	廿日
四七九丁	六行	(探索)	探索

明治十年四月十八日御届

〔定價壹圓廿錢〕

翻刻出版人

東京濱町壹丁目壹番地  
高知縣士族

田中 信 顯

發兌書肆

同 銀坐三丁目十四番地

東 洋 社

賣捌所

同 通三丁目十四番地

丸 屋 善 七

同

大坂平野町四丁目卅一番地

精 々 社

取次賣捌所

同 心齋橋通備後町角

吉 岡 平 助

同

高知縣下阿州徳島新町橋東詰

黑 崎 源 助

二七一丁	二行	(驅逐)	驅逐
三四七丁	三行	(返逆)	反逆
全	五行	(埋伏)	埋伏
三六〇丁	一一行	(振益)	益振
三七八丁	一〇行	(改)	攻
三七九丁	五行	(國子)	國人
四〇九丁	八行	(受倫)	愛倫
四三四丁	一二行	(耳日)	廿日
四七九丁	六行	(探索)	探索

明治十年四月十八日御届

〔定價壹圓廿錢〕

翻刻出版人

東京濱町壹丁目壹番地  
高知縣士族

田中 信 顯

發兌書肆

同 銀坐三丁目十四番地

東 洋 社

賣捌所

同 通三丁目十四番地

丸 屋 善 七

同

大坂平野町四丁目卅一番地

精 々 社

取次賣捌所

同 心齋橋通備後町角

吉 岡 平 助

同

高知縣下阿州徳島新町橋東詰

黑 崎 源 助



外 1457

---

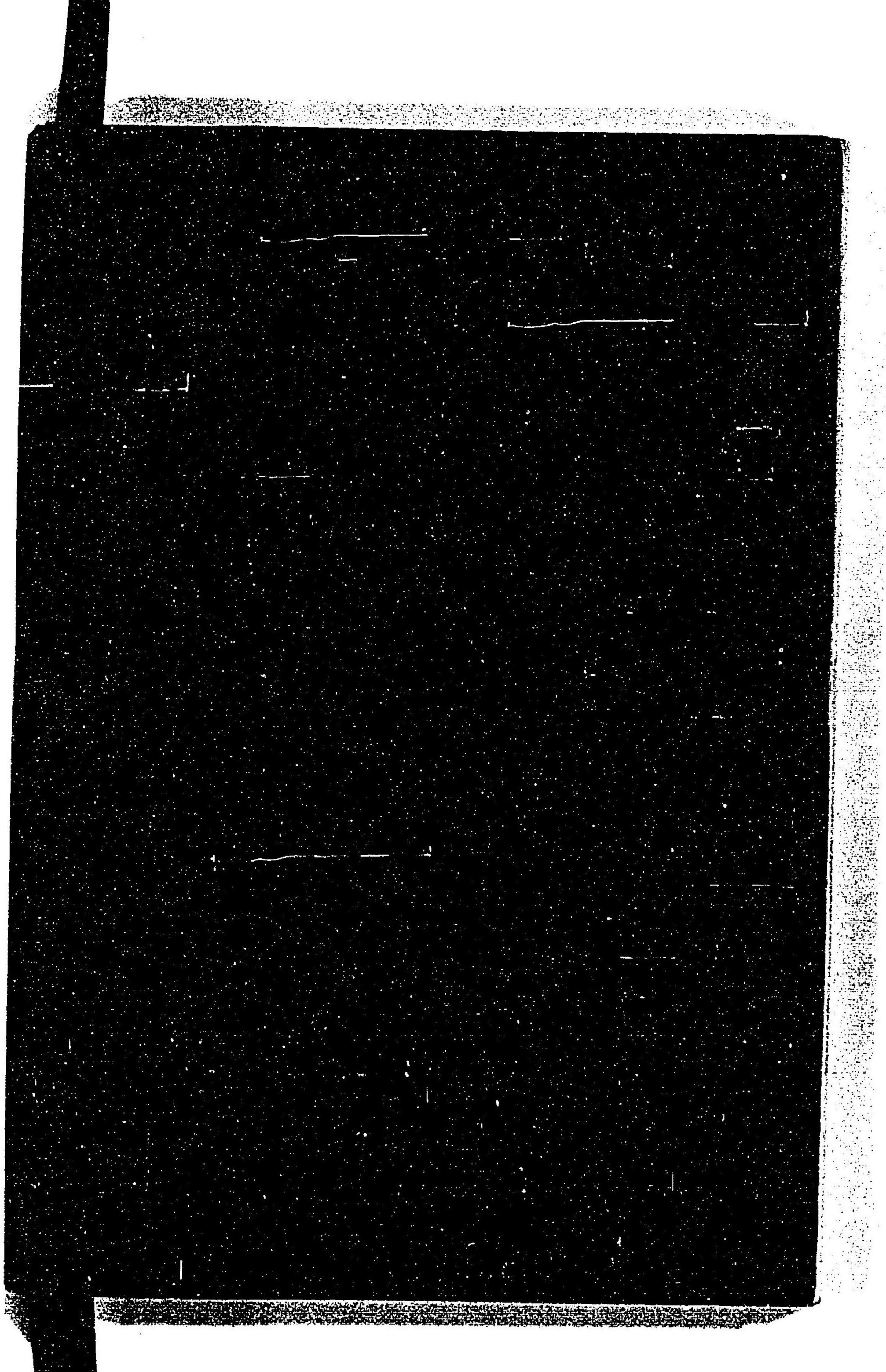
17

外 1467

---

15

36  
113



36  
113

Ⓜ

003522-000-3

36-113

英史 (改正再刻)

大島 貞益 / 編訳

田中 信顕 / 刊

M10

ACD-0047



